

幼兒の教育



第十四卷 十一月號 第十號

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

改訂 增補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 六 錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要から到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

觀察の實際 (再版)

幼兒の教育 (月刊)

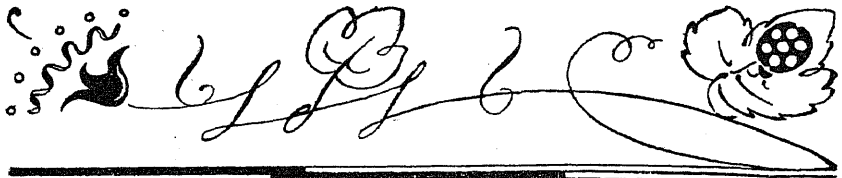
菊版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢
送料 地方・北海道・臺灣・朝鮮・滿洲 金 拾 五 錢

菊判一三〇頁 定價金 壹 圓

送料東京市内金六錢 其他 金 九 錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢

一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共



第 一 十 號 幼 兒 教 育 の 第 一 十 四 卷

目 次

扉

國民幼稚園の名に於て(九)……………倉橋惣三(一)

幼稚園の遊具(三)……………佐々木等(二)

國民學校藝能科音樂の本旨、實際及音感教育……………井上武士(六)

戶外遊び(二)(三)……………古澤靜子(三)

幼稚園のお庭―誘導保育の主題……………町田行子(四)

各地保育會の活動長野縣保育所の傾向について……………鈴木鳴海(一六)

幼兒の母……………(三)

誌 上 保 育 講 習

國民學校ニ幼稚園保育の實際……………倉橋惣三(二五)

國民學校國民科指導の精神……………竹下直之(三)

幼稚園遊戯……………戸倉ハル(四)

幼稚園手技……………及川ふみ(五)

育教學科の兒幼

與へ様母おと生先るれた持受を様子おの園稚幼
!! 書引手の育教學科の生先藏七堀たへ

安。いなはで察理は成練の「眼るす學科」「心るす學科」の兒幼は養涵の「力るす學科」。いなはで明説的時一な價めゞこに中の「想夢」、ずへ答に座即到理處の間質、問疑容内此るなに爲てく白面たれさ説力を事ふ云こくおて。いさ下覽御を
……灌排と養榮……體身るな全健……的目の育教(述略次目) 教の體一身心……官五……潔清……養休と動運……吸呼と鼻の間疑……育教學科の兒幼……較比のと庭家と園稚幼……養園稚幼と育教學科……理處

¥ 1.20 円 .10

文圖
部省
推省
薦書

尊い參謀の宮さま

謹みて北白川宮永久王殿下の御一周年祭を迎へ奉り御高德を偲び奉る謹書

定 價 壹 圓 五 拾 錢

千 十 四 錢

千 一 二 〇 錢

陸軍大臣 東條 英機閣下推獎
文部大臣 橋田 邦彦先生推獎
我等は宮殿下の御高德を此一周年間幾度となく
各誌上に謹載させて頂いて参りましたが、今度
新しく御一周年祭をお迎へ遊ばされまして、其記
生涯の御物語を御幼少の御迎へに誌記
して發刊させて頂きました。國民必讀を請ふ!!

最新刊 河内いね 著



女教員は明治、大正、昭和の三時代をかく歩みか
く取りあつたから、これからは、國民學校の礎
になるには、さう上つたらよいか!
身は九州の一孤島種子島の名所に、今尙三十七
年、一教育一筋に身を獻け、今尙三十七
歳、女教師の四十一年の母心、師心を
掲げ

永田秀次郎先生御推薦

世の母と教育者に與へる
女教師の手記!!

國民學校 母の爲のよびごと目記
反省しながら記録してゆく中、知らず知らずの間にお母様方の念願するよい子が出来上る
三言ふ仕様便利な「掛け方日記」です。

待望の掛け方日記出づ!! 定價〇・六〇 円・一〇 〇この日記は子供の一日を、行書、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

際には非此れ丈は心得て置かねばならぬ 國民學校の教育の解説書
接家庭の直



父兄會や、
或其他の集り
或は兒童の
家庭との直
接の連絡の
解説書



2 BかそれともHBか、無雑作に
ひよろ／＼とひいたのが、いかにも
コスモスの莖らしい。花辨に就ては
紙の色と質を選ぶのにちよつと時間
をかけたが、それがきまつたとなら
ど、切るのも早し貼るのも早し、べ
た／＼と之れも無雑作極まるどころ
が、秋もやゝ更けて、雨にも打たれ
風に吹かれ、かそけくも蕭條たる此
の花の亂れ姿をよく出してゐる。折
から遠くて飛行機の音が聞える。聞
き耳早い此の子はつと立つて庭へ馳
けて行つた。此の名作をほつぽり出
して置いたまゝ、ふりかへつて見よ
うともしない。どこまでも無雑作で
ある。空は透き澄るやうに碧い。

(倉橋生)

て於に名の園稚幼民國

園稚幼民國立私 (九)

三 物 橋 倉

國民學校は私人の設立を許されてゐない。國民學校の本質の完全なる徹底として、私人の設立を俟つを要しないのは當然である。就學前の保育も、義務制國民幼稚園にまで完全なる徹底を得た時は、國民學校と同じく、一切が公的施設なるを至當とされるであらう。しかし、今日の場合、われらは、國民幼稚園の公的設立の普及發達の急速なる促進を専念するに共に、就學前國民教育に純正なる熱意をもつ篤志家による私立國民幼稚園に對して、公的同樣の存在意義を認識し、存在價值を敬重すること素よりである。或は寧ろ、その設立者、自身を以て就學前國民教育の大任に當らんことを奉公の篤志と、恐らくや多くの場合免れ難き自己犠牲に向つて、深甚の感激を禁じ難いのである。

但し之れは、それが誠に國民幼稚園たる場合に於てである。その設立者の個人的人生觀や教育觀や乃至生活的趣味感の満足のためである場合は、少くもその點に關する限り、それは全くその人の個人事業であつて、公的教育機關に併立するものではない。従つて、その個人價值に於て認識し尊敬することはあつても、たゞそれだけに止まつて、それ以上何の感激もない。

これに反し、眞に公的本質と價值とを有する國民幼稚園であるならば、その創設許可の際のみならず、常に周到に、その經營と保育の實際に懇切なる關心を示し、準公的施設として、必要なる各般の補助を提供し、その人に酬ふ、その業を扶けることが必要である。現在、保育所が、社會事業なるが故に、補助金を與へられ、私立幼稚園にそのことなきが如き見解にいつまでも偏してはならないのである。

元來、教育機關の公設私設は、教育そのこととして、實に設立者だけの違ひであつて、被教育者が少國民たることに於て、一毫の差別もないのである。公設の少ないのは、公的認識のおかれてゐることを立證してゐるものであり、その點に於て、誠に遺憾至極とする處である。しかし、現在の我國の事實としては、幼稚園の總數こそ問題であり、必ずしも公私を問はず、そこで、現に幼稚園教育を受けてゐるものは、一様に貴重なる日本皇國の幼児であることを忘れてはならない。

就學前の幾年が、義務制國民幼稚園となるの時の實現せんことは、國民幼稚園の名に於ての必然の理想である。しかも亦、今日の私立幼稚園が國民幼稚園として認識せらるべきこと、敬重せらるべきことも、當然の現實である。そのための自覺の要は更めて言ふを俟たない。

幼稚園の遊具 (三)

東京女子高等師範學校教授

佐々木 等

十月號にペンを執りました時はさうしたこそか氣乗りがしないので、誠に熱意のない原稿になつてしまひました。

それならば次の原稿をしつかり書けばよいではないかと思はれるかも知れませんが、それが又問題なのであります。理由は國民學校の體鍊科の要目調査委員會が頻りに開かれて居ること、厚生省の仕事として女子體力章檢定の種目決定の會合が屢々開催せられて居ること、女子の體育鍊成會に顔を出さなくてはならないことになつて居ること、學校の諸行事に惱殺されて居ることなごからばかりでなく、私の個人的な幼稚園の遊具に對する知識の貧困が大なる問題となつて思ふ様にペンが走らないのであります。

前月號さ、前々月二號さに、滑臺さか、登棒さかを書いた積りで居りますから、今日は何か他に幼児達が自然的に好む遊具について述べて見たいと思ふ。

幼稚園時代の幼児さいふものは、何かしら、自分の身體を搖ぶることを限りなく好くらしいのであります。その理

由はわからないが、彼等は母親の懷に抱かれて居た時代、子守唄を數へながら母親に搖すぶられた感觸を多分に體得してそれが殘存して居る爲めかも知れない。

鞦韆 此の感觸を自らの手によつて試みて見やうとする。それには最も好適したる鞦韆がある。鞦韆は彼等に取つてはなくてはならないところの自然的遊具なのであります。

この遊具にも種々の種類がありますが、幼児に適するものは稍々長じたものに與へるものよりもより安全性を具へたものでなければならぬ。

それには、腰掛て居て誰かに搖すつて貰ふ形式のものがよいでありませう。然かも假りに腰掛から落ちるやうなこそがあつても危険のないやうにつくられたものがよいのであります。

但し、此の鞦韆の運動は被動式運動であつて、身體の發育、體力の増強から見ては大して効果を期待し得ないところのものでありませう。

しかし、彼等はこの遊に對して言ふべからざる歡喜を味ふらしく見えるのであります。

被動式の運動でありますが、前の方へ振られる時には、胸廓を擴大して大いに吸氣をなし、呼吸筋の修練と共に腹筋の緊張を招來し、輕い腹壓を高め、内臟諸器官の機能を盛んならしめるやう促進するものであります。

又後方に振られる時は胸廓を縮小して呼氣をなし、腹筋はゆるみ、背筋の鍛鍊をはかるのであります。體側に吊られた二本の支柱は兩手で持つて身體の顛倒することを防ぐと共に、之れによつて身體を支へる力、即ち、懸垂力の養成を圖ることが出来るのであります。

即ち、自らの力によつて行ふ運動でなく、被動式の運動であるから發汗するやうのことも、過勞に陥ることもなく極めて平易な、然かも相當の體育的效果を期待し得るこの運動のさいふこぎが出来てもであります。此の時代の體操や、其他の運動の多くは、身體の内部の發育を促進することに對しては不十分なるものがあるのであります。此の遊は、不知不識の間に内臟に刺激を與へ、内臟の機能を促進し、内臟の正常なる發育をはかるこぎとなるのであります。

かうした被動式の運動が此の時代の幼兒にはよい運動であるさいふこぎが出来るとであります。前にも述べてある

やうに此の時代の幼兒は自分の力を發揮して大いに持續的に活動するさいふやうなこぎは甚だ不得手な時代であり且つ、之れを要求することは無理なことなのであります。

従つて、鞅韃の如き自然的な遊を彼等に與へるさいふこぎは彼等に取つては最も好適な運動のさいふこぎが出来るのであります。然かも、それから來る効果が相當大なるものゝあるこぎを思ふのであります。

次にも一つの自然運動としての遊具を擧げるならば、未だ日本のこぎでも造つて居ないものでありませうが、地面から高さ四十糎位のこころに一本の棒を横たへる。此の棒は丸木の自然木が最もよいと思ふが木の質によつて皮が剥げるこ滑り過ぎる恐があるから、栗の木か櫨の木なごがよいであります。

それではければ、多少加工して上面を平に削つた方がよい。その長さ三、四米のものを固定して動かない様にする。それだけ渡つて遊ぶこぎも出来ませんが、幼少の時は平衡を取るこぎが困難でありますから手の支へのある方がよいと思ふ。

それで前に固定した横木から約三十糎位側方に離して平行にして高さ地上から一米か一米十糎位の横木を固定する。此横木は直徑四、五糎位の丸い木にしてもよし、又上方を丸味を帯ばせた幅廣の板にしてもよい。子供達が持ち易

い様にしたものがよい。

かうした二本の横木を造つてやるこゝ、子供達は只でさへ何かに凭つて遊びたい時代でありますから、必ず此の横木に乗つて側の本を渡り始めるに違ひがないのであります。

此の種の遊具は我國で工夫されてあるのを未だ見たこゝろがないのであります、之が出来たら屹度彼等は奪合つて寄付く様に思はれるのであります。

勿論季節によつて或は出来たてに否こゝによつて異なるでありませうが、兎に角喜んで寄付くこゝろを思ふのであります。

此の遊具から如何なるこゝろが期待せられるかといふに、子供は身體の重量に比べて案外一時的の握力が強いのであります。丁度雨蛙の足の吸盤見たいな役割を演ずるのでありませう。

よく高い方の横木を持つて確實に低い横木を踏みしめて渡るこゝろに努力するであらう。彼等が高いこゝろに上るこゝろを限りなく好むものであるといふこゝろを述べたと思ふが、地上四十糎の高いこゝろに上つた時の彼等の心持といふのは只高いなあといふ氣持で一杯であると思ふ。

それだけ彼等は氣宇が大きくなるのであります。そればかりでなく始めは恐々渡つて行つたものを何回さなく繰返して居る中に自然に自信力がついて後には平氣で樂な氣持で渡り終るこゝろになるものであります。

而して、平均運動が樂に出来るやうになる。平均運動が樂に出来るやうになるといふこゝろは三半器官の正常なる發達によるものではあります、かうした運動を行ふこゝろによつて自然にその機能の訓練が積まれるのであつて、最初は恐ろしいといふ氣持が強く全身の緊張を缺き、思ふやうに渡れないものも遂には平氣で渡れるやうになるといふのは、馴れるといふこゝろに共に神經訓練が出来るからであります。

同時に此の運動から臂を前に舉げて三、四米横に歩く間に胸廓の擴張をはかるこゝろなるものであつて、それに伴つて自然に呼吸が深く大きく行はれる爲めに呼吸筋の修練がなされるのであります。

又、此の平均運動は身體の兩側前後上下の相平衡せる緊張がなければならぬのでありますから、全身の調和的發達に導くこゝろが出来るのであります。

此の時代の幼兒は身體的に見て必ずしも平衡の取れたものとは思はれませんが、否平衡の破れ易い身體の發育状態にあるこゝろが、此の時代の特徴と見てもよいでありませう。即ち、頭が急に大きくなつたり、或時は急に手足が伸びたりする時代でありますから、相平衡せる運動を要求するこゝろが不合理かも知れませんが、かうした自然的運動を行つて居る間に自然に彼等の發育上に必要な慾求が

充たされることゝなるであります。

此點、彼等の精神上に及ぼす影響も亦大なるものがあるといふことが出来るであります。即ち、最初は努力的に行つたものが否、之れを見た時にあれを渡つてやらうといふ勇氣を出しては見たが思ふ様に渡るこゝが出来ずに、非常に努力的に渡つたものが漸次樂な氣持となり次には平氣で渡れる様になるといふ自信力が出来て来る。次に更にもう一段高い困難なものを欲求するやうになつて来るであります。

かうしたこゝによつて、彼等の元氣は更に倍加して行くといふこゝがうかがはれるのであります。彼等に此の横木を渡らせるばかりでなく、高い方の横木には飛付かせて、それに吊下がらせるこゝも出来るのであります。これによつて、身體を舉上するこゝの臂の力を養ふと共に、全身的の運動として身體發育を助長するこゝが出来るのであります。

以上は我國に未設備の、私の観念的なものでありますが造らうとする意志さへあればいさ心安く造るこゝの出来る遊具なのであります。

若し本當に子供をよく育て上げやうとする考へのある方は、此の貧弱なる私の觀念を必ずや實現して見やうなさるであります。又、それほゞの考へを持つておいでに

ならない方は、何だ話らないこゝではないか誰だつてそれ位のこゝは考へて居るおつしやるかも知れませんが、誰か一つ我國の幼稚園の魁をなし先鞭をつけてその實際を證明して頂いたら此上もない幸せと思ふ。

子は國の寶なりであります。かうした遊具をつくつても放任して置いてはいけないのであります。特に子供達の喜んで遊んで居る時には眼を彼等から離さずに常に怪我なきの起らない様に注意しなければならぬこゝは事新らしく申述べた必要はないと思ふ。

これから漸次寒さも加はつて來ますから遊具も戸外から漸次室内に移つて行くことゝなるかも知れませんが、出来るだけ戸外で遊ばせるやうに仕向けて欲しいと思ふ。

その理由は成べく日光に當てたいといふ希望からであります。寒い時には自然に放つて置いても成るべく暖い方向つて行くものであります。室内を暖めるに其處に這入つたきりになり勝てありますから、濁つた空氣の中に長時間居るこゝゝなつて衛生上から見てよいこゝでないのであります。

さうか大事な他人の子を、國家の寶を考へて健康に強く期らかに育て上げるやう祈つて擲筆することにしませう。さうも皆様の御期待に添ふやうなこゝを書けないペンの鈍さを御ゆるし下さい(二六・一〇・一〇)

國民學校藝能科音樂の本旨・實際

音感教育

講演筆記

東京高等師範學校教官 井上武士

幼稚園の音樂についてさういふ事をやつたらよいか具體的にお話すれば皆様には喜ばれるだらうが、私は幼稚園さいふものを知らないのです。従つて今明日にわたり主として國民學校の事を申し上げます。さうすればその前にある幼稚園ではさうすればよいかは皆様の御體驗からおわかりになることと思ひます。

先づ、國民學校音樂教育の根本方針は如何、次に國定教科書は如何に編纂されてゐるか、またそれを使つて音樂教育を如何に實行してゐるかさいふこの三つについてお話したいと思つてゐます。

一、音樂教育の根本は何か

その前に、ひろく音樂教育の根本についてお話しします。音樂教育は精神に教養を與へることを目的とします、ギリシヤ、ローマの古い時代から今日に至るまでこの目的に變りなく、また東洋に於ても同じなのであります。飽くまで

音樂による精神の教養、人格の完成に重きを置いたことは確かで、肉體への影響についてはあまりいはれず、主として音樂の影響は精神にあるといはれ、またさう信じられて來たのです。

二、國民學校音樂の本旨

しかし、國民學校の音樂教育では、歌曲を正しく歌ふこと、音樂による國民的情操の陶冶を目的とする外、時代の影響は、精神のみを目的とせず肉體への影響を重んずるやうになりました。即ち感覺、特に聽覺の陶冶がそれであります。國民學校の音樂教育が特に音感的といはれる所以もここにあると思ひます。耳をよくすることは音樂教育の使用命の中の大切な分野なのです。今までは音樂は味ひ、歌ひ、生活にゆきりをつけることが主に考へられたが、時代の影響から鋭敏な聽覺の育成が考へられて來たのです。従來、耳が大切であるといはれたのは音樂鑑賞の爲であつたが今

後は國民生活に於ける耳の使命から大切であるといふのであります。

耳が如何に生活上大切かといふに、人間が一生の中に一番多くつかふのは眼と耳です。その中でも耳をよく使ひます。眼は限定された時間だけ使ふのだが、耳は眠つてゐる時にもある程度の刺激には反應する等、生活の廣い部面に關係を持つてゐます。古來盲者に比して聾者に優れた人の少いのをみて、精神修養の上に眼より耳が重要な役目をなすことがわかると思ひます。聰明の聰は耳へんで目へんではない、聽覺の銳敏なることを示す文字であります。

ところで、音樂教育といふものが、單に歌を楽しく歌ひ、音樂を聴くことにより精神的教養を高める事だけでなく、耳を銳敏にすることを考へるやうになつたのは時代の影響であります。生活の複雑化により、世界の日本國民の立場から音樂教育が非常に重要になつて來たのです。子供の側から直載にいへば、音樂の爲にのみ耳が必要なのではなく、何を學ぶにも耳をよくする必要があるのですが、これを音樂教育が重點を置いて擔當することになつたわけで、音樂教育の使命も廣くなつたのであります。この銳敏なる聽覺の育成といふことが、今度の國民學校音樂及その教科書の中にはつきり出て居ります。

三、國民學校音樂の實際

(一)音の問題 國民學校一年の子供には、國語で先づ片假名を教へ、次に簡單な漢字を教へますが、これは何を豫想する國語教育かといひます。日本國民として必要な國語の生活に耐へる基礎の教育を豫想する、即ち、日本人として必要な文字の生活、言葉の生活はこれを基礎にしてつみ重ねてゆくのです。そこで音樂の方に入つてみるに、音樂では子供は現在及將來非常に複雑な音の生活に入るが、國民學校ではこの基礎を教へるのです。それでは音樂では何を基礎の教育を考へるかといふことになり、音の問題が起るのであります。こゝにあるピアノは八十八鍵で、最低音は一秒間の振動數二十七、長高音は約四千といふのですが、子供の生活に於ける音はこの様に單純なものではありません。非常に複雑なものです。學者の説によれば、人間に聞える音は大體一秒間十六から二萬振動まであるといひます。けれども勿論個人差もあり、年齢差もあります。(ハ調ドを弾く)この音をこゝにゐる皆様はそれと異つて聞かれています。この音の振動は非常に複雑なのです。

さて我人間が聞き得る一秒間十六から二萬振動の音の間には無數の音がありますが、それを一々區別して聞くことは出来ないのです。半音の八分の一より少い差になる區別が出来ない爲、無限な音が有限な音としてきかれるのです。ピアノの音はそれを單純化したので一オクターブに十

二音しかありません。田中氏の純正調オルガンでは一オクターブに三十六音出ます。しかしこれでも音楽は完全には出来ない、五十三の音が必要とされて居ります。生活の中に於てだけでなく音楽に使はれる音も複雑になるわけです。この中で我々はさういふものを基礎と考へるか、それがピアノの幹音なのです。音楽に用ひる音は複雑だがそれを最も單純化したのがピアノの十二音ですが、これを純正律に對し平均律といひます。國民學校や中等學校では平均律の樂器を用ひるので音樂の最も基本となるものを使かつてゐるわけであります。

さて、このピアノの八十八音は系列的に並べられて居り黒鍵と白鍵とに分れてゐます。そして黒鍵は三、二、三、二、三規則正しく並んでゐます。この中、白鍵から出る音を幹音といひ、また白鍵音ともいひます。幹音から派生したのが派生音、即ち黒鍵音と考へます。これは、理論的にいふと違ふ場合も生じますが事實上は黒鍵音に限るわけです。(ロ)幹音について 次に幹音の正體を調べてみませう。白鍵のある一音を基にし次ぎ／＼に白鍵を弾く八番目に同音があります。次の音を基にしても同様、その隣りを順に調べても同様です。従つてこの幹音の中には七音が基礎をなしてゐるこゝがわかります。それに名をつけたのが音名です。音名は獨逸ではA, H, C, D, E, F, G, 英米ではa,

b, c, d, e, f, g, 我國ではい、ろ、は、に、ほ、へ、こ、といつてゐます。結局ピアノの八十八音はこの七音が繰り返されてゐるものです。そこで、國民學校では、初等科一年から三年までで幹音を覚えさせようといふ計畫なのです。つまり幹音を覚えさせるこゝを通して聽覺の育成をするのであります。

(ハ)幹音を覚えさせる では、幹音を覺えるこゝはさういふこゝかといひます。幹音の一つ一つの音の特殊な音高を覺えさせるこゝいふ事なのです。例へばイ音は他のロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、の六音と全く違つた音高を持つてゐます。これは尤も人間がきめたものですが、この特殊なる音高を覺えさせるのです。覺えさせるこゝいふのは、何で鳴つても、その音が何音とわかるやうにさせたいといふ考へ方なのであります。

同時に、音には特殊な性質があります。これも覺えさせるのです。即ち、幹音の特殊なる音高と性質を覺えさせるのであります。覺えさせるこゝは例へばイ音をイ音として認識させ、同時に鑑賞させ、また記憶させるこゝいふ三を含みます。

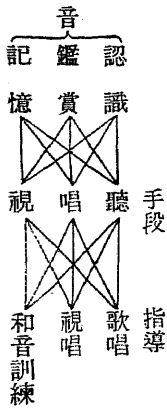
(ニ)實行上の手段 これを如何なる手段で實行するかといひます。先づ聽かせる事、次に唱はせるこゝ、更に視させるこゝ

(圖示)

をします。七幹音を一年から三年までに教

へるのだから、先づイ音を一年の一学期か、つて覚えさせる。すればこの音のみを聴かせ、唱はせ、視させればよいわけです。しかし、これでは非常な不都合を生ずるので、これは採りません。また今度のウタノホンでは#やリを用ひないやうにしました。この爲、デンシヤゴツコはもこ二調だつたのがハ調に下り、ヘイタイサンは二調からハ調にやはり、二年用に入れられてゐます。これは幹音のみで作曲する爲に改めたのです。

(ホ)實際指導上の方法 さて國民學校音樂教育は實際指導上、如何なる方法をさるかさひますか、先づ歌唱によります。これは、聴(ラジオ、蓄音機、先生の範唱等)唱、視(譜が大きいのは視させる爲)の三手段による歌唱の指導を通して幹音を記憶せようとするのです。次は視唱、これは、三年以上になつてゐますが、その準備として和音訓練をします。和音訓練は聴、唱、視の三手段によりますが幹音のみ扱ひます。この三指導を通して音樂教育のめざす幹音の獲

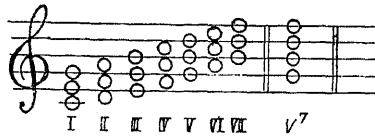


得を實行するのです。

(ハ)和音 和音といひますが、國民學校では一年から

三年までに和音中の基礎的なハ調の各度上に出来る三和音と五度の上の七の和音トロニヘミを教します。

これらの和音は七幹音を組み合わせたものです。白鍵だけで出せる音を三年まで扱ふわけであります。以上が國民學校のウタノホンを編纂する方針であり、また藝能科音樂の根本方針なのです。



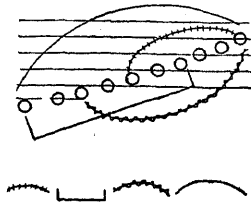
(ト)國民學校音樂の實際 次に實際について

お話させよう。ウタノホン上には二十教材あります。この外に歌唱の指導としては儀式唱歌があります。これは國民學校では重要視されてゐます。それから校歌も教へなければなりません。かういふわけですから歌曲指導の時間が足りないかもしれないのでこの二十の歌曲の中、必修教材と選擇教材とを定めてあります。即ち、ウタノホン上では、ガクカウ、ヒノマル、ウミ、オウマ、オ月サマ、ハトボツボ、兵タイゴツコ、ヒカウキ、の八が必修教材で、軽く過す時、又は省くときは選擇教材の中から省くのです。かういふ仕組が國民學校にあるといふことを頭において幼稚園の方を指導願ひ

たいたのであります。

この歌曲を教へる時の方法は從來こ變りありません。間違へずに正しく教へてやればよいのです。これが幹音獲得の基礎の教育となるのです。子供は直觀力が強いから幹音の獲得も早いです。小さい子供達程、互ひに差が少く、獲得も一體に揃つて出來ます。

かういふ風にして歌を教へる一方に於ては五線譜を音名でよむ事も始めます。



一年生の音名視唱範圍

一年生の歌唱音域

和音訓練範圍

幼稚園の子供の一番出しよい音域

この歌を唱はせるさいふ事の中にはいろいろなこまが含まれてゐます。單に音の高さを覚えさせるこまだけではなく、音の長さ(リズム)に對する教育、或は發聲、發音の教育も含まれてゐます、自然な、可愛らしい聲で歌ふやうにするのです。レコード等も自然な聲のものを選ぶこまが必ずです。發音も重要なこまです。國民學校一年生として發

音上注意する點を次に申しませう。國民學校音楽が發音に

對して如何なる態度をこつたかこ申しますと、國語を直接聯絡をこつたのです。國語のこつた基準は、東京の中産階級の兒童語でありますから、結局、兒童語に基準を置いたさいへるわけです。その中で大切なこまを二、三あげてみませう。

(一)ガ行音について。ガ行音 } ガ||濁音

○言葉のはじめに出た時は濁音。

例。ガク、カウ、ゲンキ、ケンカン。

○擬聲音の時は濁音。

例。ゴンく。ガラく。ゴウく。

○言葉のはじめでない時は鼻濁音。

例。ウケヒス。ガクゲイクワイ。

○…が、…の如き時は鼻濁音。

例外。「シ」の次に來た時。コクミンガクカウ、キンギン は濁音。

(二)長音の發音について。

一ネンセイはセー、ヘイタイはヘータイ、

クレイはキレー、ヘイキはヘーキ、キャウサウはキョーソ、を發音する。ウタノホンで)のある時は、長音に發音する。幼稚園でもこのやうに指導していただきたい。

(三) 鼻音について。

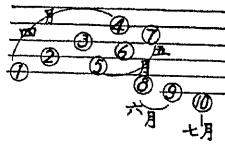
ウマ、ウメ、ウマル等はmの發音をする。

(四) 兒童語に基準を置いたが、例外がある。「ネガヒマス」の「ス」は普通は無聲擦音だが、唱歌では有聲で母音を響かせる。

このやうな内容を含む歌唱の教育であるといふことを念頭に置いて幼稚園でもやつていたゞきたいと思ひます。

次に視唱の問題ですが

先づ①を「ホ」に教へ、い
指させ(ウタノホン表紙
用)てくりかへし教へる
ルの「ホ」に教へてもい
は先生方の御工夫により
さをつけず、名前を覚え
す。



四、歌唱と視唱のすゝめ方

今日は御一緒に少し歌つてみませう。(ガクカウ、ヒノマル、ユフヤケコヤケを練習)正しい高さ、正しいテムボで歌へるやうに指導するところが大切です。このユフヤケコヤケはかなり特徴があります。つまり、年度の教科書には日本音階を比較的多く盛り入れたので、一年の本には六曲あります。

上圖の順序で
はせてみ、又
裏の五線譜利
のです。ホタ
でせう。そこ
ます。音の高
させるので

さて四、五月に七音の視唱を終る間に、歌をだん／＼に教へてゆくのです。さうするに五月末になるに「ガクカウ」なき譜で唱へるやうになる。これは一—七までの音だけで出来てゐる曲だからです。「ヒノマル」「ユフヤケコヤケ」も同様五月末になるに譜で唱へます。即ち、四月には歌唱と視唱は別に始められるが、五月末には急角度に結合するのです。歌唱と視唱の二者が互に獨立すればする程、即ち徹底すればする程、結合は徹底します。この結合した音名視唱が國民學校教育に如何なる意味をもつかといふに音高記憶の基礎になるのです。何故かといへば音の高さを憶へさせるには階名唱は不便です。例へば「ガクカウ」で「ソ」の音は「ヒノマル」では「レ」、「ユフヤケコヤケ」では「ト」になる。この事はこの音の高さを憶へるに不便なことです。三年間、六十の歌を同じ音名で歌ふのは即ち、音高記憶の結果となり、同時に、音名視唱の基礎になります。かうして六月になるに「ニ」音をやり教材「ウミ」までは全部歌へるに成り、更に七月になれば九音をおぼへ、一年全部の教材がうたへるわけがあります。以上歌唱と視唱のすゝめ方について話しました。

戶外遊びニツ三ツ

附屬幼稚園 古澤 静子

うすら冷たい風と共に、爽やかな空気を肌を感じ、濕潤な大氣を深く肺の中で味はふ時節になつて参りました。

お山の中で頭をもち上げた、きのこが、ぐいさ伸び、固い毬囊の中で美味しい栗の實が、かつちりき、かたまつた様に、子供達の身心は、澄み渡つた高い〜空に向つて躍動して居ります。

秋の陽光を浴びながら出来るお遊びを、ニツ三ツ竝べてみました。

買物遊び

準備

- 地上に間隔をおいて、子供達全部を收容し得る圓を四ツ五ツ描く。
- 各圓は、例へば呉服屋、玩具店、食料品店、その他の如く明瞭に區別しておく。

遊び方

はじめは、全部圓外に居る。先生が先に作つたお店で賣つてゐる商品の名を呼ぶ

圓形ひきくら

準備

- 全體を約八人一組のグループに分ける。
- 各組は各々連乎して圓形を作り、その中に三重の圓を書く。

- 各人には一、二、三、四、五の番號を付け、中の圓は、外圓、中圓、圓心とする。

遊び方

これは、一組の中の或る一人を、他の四人で、圓心に

引張り込む遊びである。

先ず先生が、一、二、三、四、五番の中、何れかの番號を呼ぶと、圓形で連乎したまゝ、他の四人が、呼ばれた者を圓心、即ち最も中の圓に引き入れるのである。一くぎりをつける爲、先生は一、二分で笛を吹く。

若し、引込まれる者が、片足か兩足で圓心に入れば、その者は零點で、引つ張つた四人の者の勝となり、圓心外に居れば、その者の勝となる。

全部の者が出来る様、何回も繰返して行ふ。

この競争は、單に一組の中で強い者を發見するのみならず、各圓より、引き込まれなかつた強い者を選び出して新しいグループを作り、順々に行つて、全體で一、番強い者を選び出すまで、續けることが出来る。

廻り鬼

準備

○全體を四人乃至六人のグループに分ける。

○各グループの各人は、一、二、三、四、五、六の番號を、かりにつける。

○各々自分の前の番號の者を覚え、四又は六番の者は、一番の者に注意する。

遊び方

最初の笛の合圖で各々適當に散る。

第二の笛で、銘々が追手になり、自分のグループの、

自分の前の番號の者を、追ひかけて擱へるのである。(最後の番號の者は、一番の者を擱へる)。

一度擱へたら一點とし、直ちにその手を離して、時間中、何回も追ひつ、追はれつ、續行することにする。

時間は、一、二分とし、再び笛で合圖する。得點は一回擱へる毎に一點とし、銘々自分の得點を覚えておかねばならぬ。はじめは各グループが、大體追かける場所を定めて行つた方が容易であるが、後には、全體のグループが入り交つて行へば、複雑で面白い。又一組つつ行へば、一層容易であらう。

片脚相撲

準備

二組に分ち、中間に直徑一・五米位の圓を描く。

遊び方

二組の者が、圓の兩方から出て、片足を片手で持つて一本脚で立ち、相手を押し又は引き、片手で持つてる脚を手から離し、又は圓外に出すことを目的として勝負を決する。勝者の數の多い方を勝とするか、又は三人抜き優退とし、優退者の多い方を勝とする。着物を引張るこゝ、顔に手を觸れぬ様にする。片脚を持つ手は、左右何れでもよいが、なるべく兩者同じ方の手

幼稚園のお庭

——誘導保育の主題——

附屬幼稚園 町 田 行 子

幼稚園のお庭は面白い

ぶらんこ元氣にこぎませう

ちから一ぱいこぎませう

高く 高く もつこもつこ高く

幼稚園のお庭は面白い

砂場のお池をほりませう

一生懸命ほりませう

深く 深く もつこもつこ深く

こどもたちが心から樂しさうに、元氣に歌ひ、お遊戯をして居ります。

幼稚園のお庭、幼稚園のお庭。

朝、幼稚園に来てから、お歸りまで、毎日充實したあそびをしてゐる幼稚園のお庭。けれど亦、あんまり親しみ深くて、そしてお庭のひまわりつゝのものに吸はれてしまつて、お庭全體としては、一度も考へたことのないこどもも

居るかもしれない幼稚園のお庭を、お部屋に備へられてある砂箱に造作して、箱庭として作つてみることに相談がきまりました。

先づ砂箱にしめつた砂を運び込み、平にならし、一方の側だけ盛り上げてお山を固めます。雜草を植ゑて芝生を作り、小砂利を集めて來てしきます。枯枝に模造紙できつた葉を貼りつけて木を植ゑました。

國旗掲揚場 ヒゴを旗さをして模造紙で作り、お山の上に立てます。

池 穴を掘り、粘土で底を固めて水を入れます。金魚、鯉なぎ、古葉書にかいて、クレオンで色をこくぬるごあまり水がしみません。魚の口に糸をつけて置き、釣りが出来る様にするのも面白いと思ひます。

笹舟なぎ作つて浮かせます。

砂場 やはり粘土で中を固め、ふちには少し粘土を高く盛つて堺ご致します。又、經木の箱を埋めたり、枯枝でふ

ちだけおいてもよいでせう。積木は木片や粘土で作ります。

藤棚 竹棒四本を支柱にし、ヒゴ、枯枝、割箸など縦横に組んで結へたものをのせます。模造紙で葉をきり、糸にはりつけて、棚の上を這はせます。季節によつて匂やかな藤の花を、或はこぎもたちの大好きな藤豆を垂らします。小鳥の小屋 深い空箱を用ひ、一面に戸をつけ、他の三面は柱の部分を残して上部をきりこります。セロファンを細くきつて貼り、金網の代用に致します。

中には枯枝で止り木、古葉書ミ菓等で巣箱をこしらへます。

小鳥はモールで作つてしまませます。

鳩小屋を別に小箱で作つてみました。鳩小屋らしく屋根をつけ、入口をまるくあけて鳩をのぞかせます。

小鳥、鳩の卵は粘土で作ります。

バラのお家 竹棒等で柱を立て、屋根をつけてあづまやの様になります。三方には低い木を二本づつ立て、入口をこします。あづまやの下部を畫用紙でかこひ(入口の所はあけて)、模造紙でバラを切紙して貼りつけます。屋根の上にも貼ります。

すべり臺 ボール紙でこしらへます。すべる方だけ經木の板を使つてもよいでせう(作り方は及川先生が昨夏講習

會に、古葉書を用ひてお教へ下さつたもの)。

プランコ ボール紙を土臺とし、葉書で箱プランコを作つて糸で吊します。

鐵棒 ボール紙の棒に、ヒゴの鐵棒を通します。葉書を二つ折りにし、背中をわにして、両手を前に伸してゐる形のごきもをかきます(手は少し太い目にかゝせる)。

手先へ穴をあけ、鐵棒に通して、クルクルまはして體操をさせます。

ジャンゲル 割箸をくくつて作ります。

その他の遊具、野菜畑、花壇なども適當にしつらへます。

之でお庭の造作は大體出来上りました。

今度は遊んでゐるごきもたちです。それぐの遊びをしてゐるごきもを粘土で、又は畫用紙古葉書などで立體的に作り、配置致します。

ごきもたちが幼稚園のお庭で、砂遊び、兵隊ゴッコ、おまじご、かけっこ等々、夢中で遊んで居ります様に、この小さいお庭の中にも、自由に楽しい遊びがひろがつて行くのでございます。

長野縣保育所の傾向について

鈴木 鳴海

一、保育所の沿革

本縣に於ける保育所の沿革は極めて最近の事にして、大正八年更級郡東福寺村の一僧侶が季節託兒所を開設したのを始め、その翌年上田市呈蓮寺の住職横内淨音氏が中心となり、明照會保育園を設置したが、本縣に於ける保育事業出發の動機となつたのである。これに次いで僧侶の中で社會事業に關心を持つ人々が各所に託兒所又は保育所を開設し、夫々その經營につきあらゆる苦練を経て今日漸く不動の地位を確保して居る。現在に於ても佛教僧侶の經營して居る常設保育所は二〇を數へ全體の四二・五パーセントを占めて居る状態である。

かくの如き現實より見る時長野縣の佛教活動は相當活潑なるものを覺えしめるのであるが、これは數字の上のみの問題であつて事實は信州人の特色である理性の強さ、功利主義に禍されて信仰心はそれ程崇められては居らぬが、功利主義は他面に於て自分の子供の教育、手足纏ひの子供の世話所として、喜んで子供を保育所に出して居るのである。

さてこれ等保育所の内容を検討して見るに初期に於ては、己れの寺の御堂を開放し、保姆も適當な人なく、小學校女教員の古手等を使ひ、正規の保姆教育を受けた人は極めて稀であつて僧侶自ら陣頭に立つて佛教の讚歌を教へ、佛への禮拜を教へ込んで居る状態で、子供の情操教育、子供の知能觀察等の科學的教育は何等施される事はなかつたのであるが、それでも子供は未だ曾て與へざりしものを與へられる喜びを満喫して居たのである。

かくの如き状態が十年餘も續き、之が綜合的連絡機關の設置の要望が漸く強くなるに従ひ、縣廳に於ても之に對へるために、縣の社會事業協會内に保育部を設け、之が連絡、指導をなす事になりたるも、從らに組織のみの編成に急にして、指導の力もなく、連絡の力も發揮し得ざりしため、之等保育事業家は、之に飽き足らずごなし、自らの力にて長野縣保育聯盟と言ふ任意團體を結成し、活潑な活動を事變前まで續けて居たのである。

然るに今次事變が勃發するや軍人援護の一施設として季

節託兒所が登場するに及んで本縣の保育事業は俄かに活氣を呈し、從來常設、季節合せて百未滿であつたものが、急に昭和十三年には三百ヶ所、昭和十四年には四百、昭和十五年には六百と言ふ様に激増に激増を重ねて來た爲めに、從來の任意團體たる保育聯盟では、之が統制が甚だ困難となりし爲め昭和十五年五月に長野縣保育協會が成立し、各郡市を單位に支部を置き、保育事業が開始されて二十年目に始めて立派な統制團體が結成されたのであつた。この保育協會が設立せられて以來先づ第一に著手せる事業は、從來保姆の養成が思ひ付きの二日乃至三日の速成講習をもつて充實させる爲めに長期の講習を計畫し、之が實行をなし、保姆の素質の向上を圖つたのであるが今後は恒常的養成機關を設置すべく目下計畫中である。

以上の斯く長野縣の保育事業は未だ足並も揃はず、理想に遠きの憾み多々あるも、近き將來に於て皇國民鍊成の一教育機關として發展せしめ様々の熱意に皆が燃えて來た、かゝる時先年畏くも

皇后陛下より季節保育所の優良なるものに對して御内帑金下賜されしもの四十四ヶ所、本年は更に四〇ヶ所を加ふるに及ぶに至つた。この機會に本縣としては一齊に託兒所なる名稱を廢して、保育所となさしめ、單なる福利事業から脱して、飽まで教育機關としての自覺の下にこの事業を

進展せしめ様として居る。

二、保育指導理念

前節にも述べた如くこの縣の保育指導理念は經營者としての先覺者が僧侶でありし爲め自ら佛教的色彩を多分に持ち佛に對する感謝の形式的注入であつて、何等皇國民としての鍊成を目指さざる處に從來の特色があつたと思ふ。この事は敢へて本縣のみでなく、恐らく全國的傾向であつたであらうが、依然としてこの新しい體制になり切れざる處に佛教保育所の特色がある。例へば園兒が朝參集して、先づ佛を禮拜して、後ちに一日の行事が始まる所が非常に多い。私は研究會とか部會とか機會ある毎に、國民鍊成を説き、三つ兒の魂を今にして教育せざれば、吾が信州は再び二・四事件を惹起するこゝを強調するのである。そして先づ教室には、天皇陛下の御寫眞を掲げて、絶えず之に對し奉り禮拜し、然る後に佛を拜み行事に入るべきだと言ふのである。

讀者には二・四事件と言ふものを知らざる方が相當ある事と思はれる故一寸この事に就て書いて見やう。長野縣の小學校の教員が昭和八年二月四日に赤化のために一齊に檢舉され一大センセーションを惹起した事件である。この爲めに幼い子供等にも相當赤い教育が浸透し之が清淨化に教育縣としての誇りを捨て、多大の苦汁を嘗めた事件を言ふ

のである。

餘談はさて置いて、佛教保育所の指令は、今こそその傳道的使命を捨て、保育本來の指令に立ち還る様に目下漸次工作中である。

次に季節保育所の傾向を観るに事變當所の指導方針であつた軍人遺家族の子女を對象として、勢力不足を補ふための施設たらしめる爲であつたのが、稍々傳統的なものになり、何でも手足纏ひの厄介物である子供をあづかつて、當該家庭の業を援け様と言ふのがその目的であるが故に保育事業は託兒所と言ふ名稱の下に實に功利的な施設を考へられ、何でも子守が出来れば誰でも保母になれると言ふ立場から、子供の心なごは少しも考慮されずに、女子青年團が毎日交代で保母代りをしたり、老婆が腰を曲げ乍ら鼻みずをすゝり乍ら子守をしたり、婦人團が規則々々で之を經營したりして、その人數三個所數では全國に誇り得るまでに至つたのである。

然るに本年春保育協會總會の際講師として倉橋先生の御來駕を願ひ、その場所に於て保育所の使命について、懇切なる御講話を拜聽し參集するものは今更乍ら保育所の使命を痛感し殊に季節保育所經營者は今まで己れ等の考へて居た保育觀念に慄然したのであつた。それ以來本縣の保育事業に一大改新をなさねばならぬてふ氣運が濃厚になりつ

ある時、小學校令が改められて國民學校令を充分に研究した國民學校職員が、國民學校の使命を充分に達成するには、この保育所も充分なる連關を持たしめなければならぬ。この爲には目下國民學校の使命も保育の使命も充分に判つて居ない女子青年團員や速成の保母に委せたものでは心許ない故、この過渡期は我々の手でやつて見ようと言ふ決意の下に國民學校々舎を開放し、多忙の中を敢へてこの事業のために挺身するのだと言ふ事から季節保育所ではあるが、各所に於いて新しい構想による保育所が是等教員の手で開設されつゝあるのは、必ず近い將來に大なる貢獻を齎らして呉れるものさ心中祕かに喜んで居る次第である。

更に之に刺戟されて常設保育所の經營者も保母も近時頼みに、己れの事業を反省し、この輿論に従つて行かうとする決意の色が見え出して來た事は二重のよろこびである。

三、保母の再教育

この節に於ては主として常設保育所の保母について述べる事にする。本縣の保母には種々の系統があつて、之等のものが系統別に團結して、相互に心から融け合ふと言ふ事がなかつた爲めに、季節保育所の保母の養成講習の際も講師として依頼する際にその組合せに随分苦勞したものだつた。そしてこの體驗を基礎として次の事を實施して見た、それは保母の知識は室内指導に於ては相當の技倆を持つて

居るのであるが室外指導殊に野外指導に當つては、只漫然として歩け、休め、食べよのみ以外に出でざる状態に鑑み、取不致自然文化研究会なるものを設立し、折に觸れ時に臨み野草の研究、河原に於ける石、水、水草、又蟲の研究等を實際に則して數回行ひ、相互の融合を圖り併せて實際の知識の獲得に大いに嚮達し指導した。この様にして幼児を野外へ連れ出しても、生徒の發する質問に問誤つくこまなく、又科學する童心を傷けるこまなく指導し得る様にしたつもりである。

前に室内指導の技倆は相當のものと言つたのではあるが、これは從來のものを踏襲する點に於てであつて、時代に則しての工夫知識及び素養は決して充分であることは斷言し得ないのであつて、例へば音感教育を如何になすか、歴史物語をどの様に童心に傳へて行くか、童心にどの様な物の構想力を養はせて行くかと言ふが如き問題については餘り關心を持たない様に見受けられ、この事業發展を希ふものには淋しさを感ぜしめられる。

かく觀かく考へて來る時、教育縣長野は國民學校に於てのみ、昔日の面影を若干存するのであるが、人の一生を支配す言はれる幼児の教育は全身惡感を覺えしめる程、脆弱性を含んで居る言はざるを得ないのである。これを強化する爲めには、今縣さ保育協會で行つて居る保姆養成講

習會を一層内容を改め再教育機關として整備する必要が痛感される。

要するに本縣の保姆の資質を向上せしめ殊に子供の生活に對する正しき感覺を養ひ、時代の認識を深める事が緊急の要務を考へて居る次第である。

四、保育所の設備

本縣保育所の設備中保育所として獨立の建物を有するものは常設四十七季節五〇位にて他は公會堂、國民學校等を利用するに過ぎないが運動用具、樂器、密音機、紙芝居等は概ね用意され、レコード、紙芝居臺本等は常に我々が新しく發行されるものを注意し、適當なものを紹介して居る。只残念なのは恩物の設備のない事である。恩物そのものには何等經費も要しないのであるが、之は本縣人の特徴として、すべて抽象を好み、觀念的傾向が強いため、大人の心を以て子供の世界を觀念的に規正する傾向が禍ひして居るものも考へられる。今こそ童心に具體的な創造力を涵養せしむる時にこの恩物の缺乏は眞剣に考へねばならぬ問題である。又他面保姆に於てもこの罪の一端を負はねばならぬものがある様に思はれる。それは恩物の持つ力についての認識の缺乏が自然に恩物さ子供の生活との相關々係を巧みに導いて行く感興も、力も表はし得ない大きな誤りを構成して居る事に想ひ到つて居らないのである。

恩物が輕んぜられると言ふ事は、保育全體の鼎の輕重を餘す所なく問はれるものであつて、このこゝは童話の構造、童謡の歌詞及樂譜の構想、遊戲等の振付け等の間に何等統一の工夫がなされて居ない事を物語るものである。

次に兒童の休憩所であるが、之も相當の室は準備されては居るが、經費の關係もあつて疊は相當に汚れて居るものが相當あるが、之はこゝで敢へて咎めるにも當らない。こゝでは寢具の設備、休憩の際に用ゆる靜かな音樂のレコードが設備されて居ないのが相當多いこゝを報告して置かうと思ふ。

五、保育事業に對する一般人の關心

保育事業關係者は斯業發展のために、夫々の立場で努力して居るのであるが一般人の持つ關心は未だく託兒所の觀念の脱せざるは無理からぬ事であるが、保育所の常設機關は富裕者の子弟の行く所、季節保育所は貧困者の子弟の行く所てふ觀念に支配されて居る傾が多い。長野縣人は新しいものを非常に好む性格をもつて居る。例へば國民健康保險組合の設立の如きは實に百二十にも及び全國の首位を占めて、他の追従を許さぬ有様である。かゝる事に氣付て我々は今この保育事業を人口政策に結びつけ、國民資質の向上のため、その惡原因を除去する方策として、母性の保護、乳幼兒の保護に結びつけて、保育事業、共同炊事を提

唱し、漸次保育事業の一般普及化を圖つて居る。

更に本縣の隣保施設普及方策として、目下厚生省の協力を得て隣保指定村を十六ヶ村に指定し、その上に各村にも之に準ぜしめて、畏くも皇后陛下の御思召を體して、保育所をして隣保の礎石たらしむべく、各村必ず一ヶ所に常設保育所を設くる様、力を極めて普及宣傳をして居る。かくして一般人に保育所の使命を充分に速かに理解せしめ、以て保育報國の實の結ぶ日の近き將來にあらん事を心から祈つて居る次第である。

六、結語

長野縣の保育事業の特色を書くつもりで書き初めたのであるが、ペンが進むに従つて、本縣の保育所の缺點のみの羅列になつてしまつた事は、當事者に對して誠に濟まなく思ふ次第であるが、時代の進展につれて、社會施設、教育施設が平行してゆくべき筈であるのに、何時も時代から一世紀も遅れて居る様な體制をもつてヨチ／＼進む姿に遂ひ私の憤しさを包み切れなくなつてしまつた。

目下の長野縣の保育事業は、長野縣人の自由主義、個人主義的傾向が全部是正されて、眞に皇國民鍊成に目覺めた時に完全な姿で御目見得るのであつて、我々はこの日の一日も早きを期して、新しい體制建設に邁進せねばならぬと覺悟して居る。(完)

幼児の母



昭和十六年

十一月

母は皆働く

今日の日本の母は、みんな働いてゐます。昔は、「働く母」と「働かない母」とがありました。そして、「働く母」は何が特別のこのやうに考へられたりしてゐました。又、「働かない母」の方が何となく高尚なやうに思はれたりしてゐました。しかし、今日では、そんな區別は、もうすっかりなくなつて仕舞ひました。それどころか、働かない母は、なまけものとして恥しいことになりました。恥しいどころでなく、御國のために相濟まないことになりました。

母がなまけてゐないで勤勞してゐるこ

とが、我子の教育の上に最もいゝ感化を興へることは、昔から明かなことでありました。所謂有閑夫人といふ名は、いつでもいゝ名譽でありませんでしたし、我子のためにも、いゝ母といふ意味でありませんでした。世が呑氣悠長であつた昔でさへそうでした。今日一層、そうであることは申すまでもありません。

それにしても、人手の少ない家の中のことに忙しく、男手の足りない世の中のことに忙しく、立派にさつさと働きながら、それで我子の養育と教育も立派にしてゆく健康と、氣力と、智慧と、氣働きとに於て、今日のお母さん方に、心から敬意を表さずにはゐられません。

幼稚園から

○幼稚園と家庭との聯絡といふことは幼稚園の方からお願ひすることでもありませんが、家庭の方からのごことでもありません。一般の注意といふやうなことでは、幼稚園の方からが主になりませうが、一人々々のお子さんのことに就ては、家庭からの方が主になる筈とも思はれます。

○うちの子は……といつた個性の御注意は素より、その時その時のいろ／＼の御事情、御都合なども、よく知らせて置いて下さるといゝと思ひます。たとへば、此頃は父が長く出張して留守だとか、或は又、いやなことですか、家に病人があるとか、規則上届け出なければならぬこととでなくとも、知れてゐない爲にお子さんへの意志の通らないこともありませう。○つまり、家庭と幼稚園とは親類のやうなものです。用事（幼児）のほかの話はしないといふのでは他人行儀でせう。

母の
講座

わが子を良い子に

九、ものを仕舞ひまでする子

倉橋惣三

幼い子のことです。そうむづかしいことを注文しても無理です。仕舞ひまでするといつても、手間のかゝること、仕方の困難なこと、それを何んでも完全に仕上げよ、遂行せよといふ譯にもいきません。しかし、一寸始めては直ぐやめる。

最初は熱心そうだが早速倦きる。何でも彼でも中途はんばの尻切れとんぼで、仕舞ひまで續けるといふことが一切ない。

これでは、いくら幼くても、可愛らしくても、良い子といへません。今してゐることは、どうせ遊びだといふ人もありませう。砂場のトンネルが途中で開墜を中止されても、積木のビルヂングが基礎工事だけで放り出されても、格別天下の大問題にはなりません。描きかけの繪が未完成のまゝに次から次へ晝題をかへられ

ていつても、秋の展覧會に出品がおくれる譯ではなし、繪本がどれもこれも三分の二位のところで新規々々と移つていつても、學會の研究發表が間にあはなくなるといふ譯ではなし、まゝことのお料理が出来かけのまゝで、けふも亦踊りの會へ馳け出していつて仕舞つたのでも誰れもおなかはへらず、頓どどこへも差障りはありません。しかし、それがそのまゝ、癖になつて、技師となり、建築家となり、美術家となり、學者となり、奥さんとなつた時にはどうでせう。といふよりも、そういう人間になつたらどうしませう。困るといふよりも、なさけないといふよりも、性格そのものゝ薄弱者乃至缺陷者といふことになりませう。

子どもながらに、仕舞ひまでしなければ

手製
榮養 お八つ

厚生科學研究所
國民榮養部 佐々木理書子

此の秋は、おさつが澤山ありますから、手近な他の材料と一緒に、お八つを作りませう。

馬鈴薯を代用しても結構です。ビスケットの代用は、お米を粉にして、メリケン粉の代りに用ひます。長く保存が出来ますから、少し大形に作れば、非常用の携帯食にも便利で、平常から作つて置くよりもよいと思ひます。

【1】おさつのきんつば

材料 おさつ八〇瓦、メリケン粉一〇瓦、砂糖五瓦、油少々、以上で一五三カロリ作り方 おさつは、皮ごと程よく切つて蒸し、軟くなつたら、皮を取つて、潰します。砂糖と少量の鹽を加へ、鍋ごと火にかけて、餡の様に、硬目に煉ります。これを丸めて、太鼓形に作り、メリケン粉の中に轉がして、よくまぶします。次に一寸と水に浸け、更にメリケン粉を薄

はやめぬ子があります。全くそうでない子があります。その途中位があります。途中位のが一番多く、普通の子でせうから、第一種でないからとて、そう心配することもありません。しかし、その普通の子が、環境の影響、教育のされ方によつて、い、方にも、よくない方にも傾くのですから、注意が大事です。何んでも、中途でやめるやうなことをさせないで、勵し促すのですね。

ところが、どうかすると、根がこういうことの缺けてゐる子があります。氣の散り易い子、倦きつばい子など、いはれませんが、こういう子には特別の工夫をして、いゝ性格を練りなほしてゆかなければなりません。一體、こういう子は、ものを仕舞ひまでするといふことの愉快を知らないのです。普通の子なら、いろいろのことで氣が移るにしても、つい倦きるといふことがあるにしても、仕舞ひまでしないことは物足りないといふ氣はあります。逆にいへば、完成の快感といふ

ことは知つてゐるのです。ところが、その快感を元來知らない子には、それを先づ味はせてやらなければなりません。元來は、子どものはたかから手傳はないのがいゝのです。手傳ふと、自分で完成する力を失はせるのです。しかし、一度完成の経験のないもの、即ち、完成の快感を味つたことのないものには、手傳つても（仕方なくですが）その味を味はせる必要があります。そして、その頃から、自分で、この味を求め、この味を得させるのです。但し、どこで手傳ひをやめるかは肝心なことです。

さて、こういう性格は、その子の生れつきにもより、教育のされ方にもよりますが、一番大きい影響は、周囲の影響です。だらしない、なげやりの、しまりのない家庭は、屢々、こういう子を作つてゐるやうなものです。戸障子をきちんと仕舞ひまでしめない子が、きまつて、そういう親の子なのもおそろしいことです。

くまぶします。フライパンを熱く焼き、油を少量引き、此の上のせて両面に少し焦目がつく位に焼き、次に周りも焼きます。弱火にして、焦げ過ぎぬ様に。

【2】ポテトスフレ
材料は【1】と同様。

作り方 同じ材料で別のものを作りません。馬鈴薯でも結構です。蒸して餡の様に作り、之れを天パンにつめて、焼きます。ない時は、辨當箱に入れ、蒸してもよく、出来上つてから四角に切り、上にシロップをかけます。人造バターを少量加へると美味です。又、牛乳の残りを少量入れてもよるしい。

【3】ビスケット作り

材料 米粉三〇瓦、メリケン粉一〇瓦、青のり少々、砂糖五瓦、以上で一六〇カリ

米粉に少量のメリケン粉を加へます。材料を混ぜ、「耳タボ」の硬さに水を加へてこね、一分位に麵棒で押し丸形に打抜きます。キリの先で、ビスケットの様に小いアナを作り、周りに庖丁で形よく切目を入れます。火鉢か、煉炭を極く弱火にして、金網をかけ、カキ餅の様に、両面を焼きます。中に、人造バターを少量入れると、美味で、しなやかになります。

日なた幼稚園

□小春十一月は日なたの季節です。ね。

南をうけた縁側の日なたがよく、庭にひろげた産の上の日なたもいゝです。テレスとカローンとかの日なたはペリー何んとかいふのでせうが、縁側や産の日なたは、まことに日本的ないゝ心持ちのものですね。實際、神代ながらの日々の光りですものね。

□その日なた程、萬物を明るくし、人を和せしめるものではありません。和を以て貴しとすると訓へられてゐながら、日かげでは、つい冷くもなる人心かなが、日なたではほかゝと、ほかゝと、にこゝ、にこゝと、わらひと共に相和して來ます。

□相和してゐる心からは、善いものが生れて來ます。相和してゐる生活からは、美しいものが生れて來ます。少々物體ない言葉使ひで恐れ入りますが、縁側極樂、産天國、みんな、日なたの有りがたさに

「我」を忘れてゐる樂天地です。

□その樂天地に一番よく滲るものはお年寄りとお子とでせう。お婆さんのお背なかとあんなにまろくなつてゐるのは、日光でふくらんでゐるからです。幼児の頬があんなにまろくなつてゐるのは、日光でふくらんでゐるからです。たゞ違ふのは、お婆さんは目をうつとりしてゐらつしやいます。幼児は目をぱつちりさせてゐます。お婆さんはべちやんとしてゐられます。幼児ははづんでゐます。まるでこむぎです。日なたに暖められて弾力がはちぎれるやうについてゐます。

□幼児の心が相和し、暖められ、内から弾力づけられてゐるのは幼稚園です。私達は、村の農家などを訪ねる時、隣近所の友達が日なたに吸ひつけられて寄り集つて、ほんとうに楽しさうに遊んでゐる縁側日なた幼稚園、産日なた幼稚園に立ち去り難く見とれることがあります。子どもらの聲のほか、しいんとした村の晝さがりの靜かさに、どこかで虹といふ音もうなつてゐるほかに何んの音といふ音も

ない。柱も壁も古くくすんだ家には、軒端にすらりと吊した唐辛しの紅いほかに色といふ色もないが、たゞ子どもらの切り抜いた古繪雜誌の色紙の小片が、産の外に散らばつてゐる。やがて、子どもらは、自分達の弾力に持ち切れなくなつて、一齊に野つ原の方へ馳け出して行つた。今まで産のわきで靜に目を細くしてゐた犬も、すわとばかり、子どもらといつしよに走つて行つた。みんなどこへ行くのが。私はにこゝ後を見送ります。どこへ行つたつて、村中日なたです。

□小春十一月は日なたの季節です。どこにもあり、誰れにもある日なたです。しかし、だからといつて、一寸うっかりしてゐると、直き暮れ易い晩秋の日でもあります。油断してゐると、つるべ落しの日は西に、夕べ冷たく、障子幼稚園にはいらなければならなくなります。

日なた愛すべし。

日なた惜むべし。

日なたをだいじにしませう。

誌
上
保
育
講
習

今夏中止の保育講習會を、その豫告通りの内容をもつて、「幼兒教育
九、十、十一、十二月號に連載して誌上講習とし、八百餘に上る聽講
御申込みの御熱意に酬ゆることゝしました。

諸先生方には御繁忙の中にも拘はらず御快諾下さいましたことを茲
に改めて厚く御禮申上げます。(編輯部)

國民學校と幼稚園保育の實際

國民學校國民科指導の精神

國民學校藝能科音樂に就いて

國民學校理數科の實際

幼稚園遊戯

幼稚園手技

倉橋惣三
竹下直之
小松耕輔
田代順之
戸倉ハル
及川ふみ

國民學校と幼稚園保育の實際 (三)

倉 橋 惣 三

前 掲 内 容

第一、國民學校と幼稚園との教育本旨上の一貫性

一、その考へのもち方

二、一貫するもの

三、一貫の内容

第二、幼児教育法の特色と國民學校の教育方法

一、従來の實狀

二、國民學校教育方法の方針

三、幼児教育法の特徴

第三、國民學校就學前必須の用意

一、健康

二、生活活動

三、

三、躑

國民學校が躑けに重きを置いてゐることは既によく知られてゐる通りである。その躑けに就ては、如何なる點に注意すべきかは、未だ明示せられてはゐないが、何れにせよ、

躑けは生活の習慣であり、よき習慣が就學と共に突然に始められることの困難は言ふまでもないのであつて、就學前必須の用意の一つであることを、聊かも忘つてはならない。

(甲) 行動の躑

ところで、然らば、さういふ習慣をつけて置いたらよいか。これは考へ方によつて、大ざつぱにもなり、こまかにもなる。餘り大ざつぱでは漠然としてゐるが、餘りこまか過ぎては止まる處を知らずで、幼児教育として不適當なことにもならう。又、中庸適切にさいつても、何を主にするかは、なか／＼定めにくい問題になるが、こゝに一つ確にいへることは、その事柄が何であるにせよ、何しろ、習慣をつけられるさういふことは、習慣をつけられるさういふこと、習慣をつけられるさういふことである。大層やゝこしい言ひ方であるが、これは心理的の事實であり、躑の根本原理なのである。

(イ) すなはち、この原理は躑事項の如何に拘はらず、兎に角く無躑けではいけないさういふことになる。無躑けは

教育思想上の所謂自然主義、自由主義が直に皆それだといふ譯ではないが、若し、極端な自然主義、自由主義で、字の通りに一切放任、うつちやりばなしといふやうなことがあつたらそれである。但し、そういふことは苟も幼稚園である以上、方針としてあり得べきことではないが、實際としては、幼児数が多過ぎたり、保姆が無能であつたり、又保姆が無責任な性格であつたりするに、そういふ結果にならぬとも限らない。ここでは、幼児達は野生のまゝの生活を送るのである。野生も、ほんごうに森の中とか、洞穴の中とかで猿や鹿を遊びくらしてゐるのならまだしもさるものになり、しかるものになる機會も來るかも知れないが、なまじ幼稚園とか保育所とかいふ、人間社會生活の中に置かれて、たゞ、きやつきやき騷ぎ、角つきあつてばかりゐるのでは、將來さんの機會が來ても、即ち國民學校に入學する時になつて、甚だ困つたことになる。そんな就學前の變態保育を受けるよりは、あつさり足柄山兒童遊園にゐた方がいゝといふことになる。

(ロ)こころがまたこゝに一つの問題は、躑けられる癖がつけられてゐるにいつて、そのおしが餘り過度にきゝ過ぎてるに、これはまた却て困つたことになるに限りはない。その惡結果が二つある。一つは、あんまりこゝて、をかけた過ぎられた布のやうに、地が弱くされて仕舞つて、躑けは

ついでゐるが張りのない子である。これでは、國民學校でも甚だ頼もしくない。おかしな言ひ方だが、國民學校の先生方は錚々たる教育者ぞろひだ。ちつこは手答へのある躑けもしてみたい。それが、入學早々おづくに、命これ待つてゐますといつた風の躑けられ過ぎた子だに、便利ではあるが躑け甲斐もない。躑け甲斐がないとは、先生自身の腕にまつていふよりも、その子がへなくで躑け甲斐がないのである。但し、こういふ子はそう滅多にないが、もう一つの困る場合といふのは、幼稚園での躑けが厳し過ぎて、無理おさへにおさへられてゐるにする。國民學校は躑けを重んじはするが、新入學生、それも、家庭から直接の新入學生を標準にしての躑けの教育的手順として、初めから、そう厳しい形式的峻烈を加へるものではない。するに、子ごも君にまつては、今までより却てらくだといつたことに感じられるかも知れない。殊に、さんなにか一段甚厳しからうと思つてゐたし、また、そうも言はれてゐたのに對して、反動的に一層なあんだといつた感じが起り、淺はかな子ごも心に、國民學校の躑けを見くびる心が起らないとも限らない。これ實に最もよくないことである。

しかしまあ、實際としては、躑過ぎなきいふことは、滅多にないことであらう。注意すべきは無躑けで、これは、やさしい保姆さんの子ごも可愛さからつい起つたり、幼兒

教育では自由を重んじなければいけないといった心理主義原理の適用しそこなひから起つたり、子ぎもの爲、却つて氣の毒の結果を與へるのである。

(ハ)さていよく、躰のつけ方であるが、個人的方法と社會的方法とある。家庭なき場合は専ら個人的であり、幼稚園では、個人的のこももあるが、幼稚園生活といふ場がもつ特色としては社會的方法が主になる。社會的なきいふ言葉が甚だ大げさだが、「大勢のなかでする法」といつてもよし、「大勢といつしよにひつくるめてする法」といつてもよし、「大勢一つ生活をしてゐる力によつて出来る法」といつてもよし、兎に角生活の社會的條件下でする躰け方である。

そこで、先づ考へられることは、この二つの方法の難易であるが、いふまでもなく社會的方法の方がやさしい。社會力といふ大きな力を借りるからである。よく親達がいふ。宅では一人の子をよく躰けるこゝが出来ませんのに、幼稚園ではこの大勢のお子さんをこんなによくお躰けになる。先生はほんさうにおえらいよ。そりやあ、幼稚園の先生のおえらいのは今更いふまでもないことであるが、幼稚園で躰のよく出来るのは、たねあかしすれば、幼稚園といふ社會力によつてゐるのである。親達がよくまあ感心する、その大勢によつてゐるのである。たゞしかし、いくら社會

的生活がそこにあるからして、それを上手に指導するものがあるなければ、却つて、亂雑になり、思ひもよらぬ方へ躰けられて行つて仕舞ふ。そこは勿論、先生の大きな手腕であり、骨折りである。がまた、いくら、先生が子ぎをも躰ける經驗があつても、それは個人的なもので、社會的方法に熟しない人であつたら幼稚園では決してうまくゆかない。で、幼稚園の先生は、勿論、ひさり／＼を躰けるのであるけれども、ひさり／＼を個々別々といふよりも、全體的にさいつたゆき方を必要とするもので、その總括的な、みんなを、ひつくるめて抱くさいつた廣い胸、大きい腕が大切なのである。ひさり／＼は、その大きな躰けられ方の中で、我れもなしに躰けられてゆくのである。

社會的にさいふことの、みんなでもない一つの取りちがへに、互に競争させて躰けの結果をせり上げてゆこうとするのがある。間違ひといふより、有害の上ないことである。「この中で誰れさんが一番お行儀がいゝだらうかしら。」誰れさんはあんなにお行儀がいゝのにな。「誰れさんに負けちあ恥しいでせう。くやしいでせう。」……先生は、相手の子ぎもだも思つて何んの深い氣もなく言つてゐられるのか知れませんが、はたで聞いてゐても背筋がぞうつします。

競争ではない。その反對の一致である。社會的さいふの

は、みんな同じことをなしてゐるので、自分も同じことをしてゐる間に、その習慣がつくのである。誰れから特に強められたのとも違ふ。叱られるとこわいからとも違ふ。するほめられるからとも違ふ。しようかしまいか一々考へての上さも違ふ。自分が常に居る社會のきまりの中に、自分の生活行動も亦おのづからきまりがつけられて、一種の則を越えないことになるのである。躰けの社會的方法の妙味がそこにある。

(二)次に、躰けといふは、何か特別の道德訓練のやうにも聞えたりする。そういふことも、時に無いでもないが、幼稚園で一般に考へられる躰けは、つまり生活訓練である。生活訓練とは、日常の實際生活そのものに就ての訓練をいふのであつて、登園からお歸りまで、幼稚園内での實際の生活行動を禮法的に、特に公共的に、衛生的に、安全的に、幼児らしさの中にも溫雅な秩序を、情味を合理を以て習慣づけることである。このことは、入園の第一時から始められ、一刻の例外なく行はれ、一人の特別扱ひなく行はれなければならぬことは勿論である。同時に、少しでも違反した行動が行はれた時は、格別罰といふ譯でもなく、習慣のあまがへりを防ぐことに周密でなければならぬ。更に、極めて必要のことは、きまり通り行はれたからして、別段、大業に取り立て、ほめたりなんかしないことである。生活

は習慣は何んとも自分で氣がつかずに、すら／＼行はれてゆくのでなければならぬからである。

なほ、幼稚園内の生活習慣は、一旦きめたことは、いつまでも其の通り續けられなければならない。多少改正を要する様なことが後で氣がついても、變へない方がいゝ。その内容よりも却つて躰けられることそのことの方が大切なのであるから。幼稚園内生活訓練の項目に就ては、各園それ／＼取りきめがあると思ふ。東京女子高等師範學校附屬幼稚園編「系統的保育案の實際」の改訂増補版を参照せらるたい。

(乙)心の躰

以上、生活行動の習慣としての躰に就て大體のことを語つた。普通に躰けといふは生活行動上のことであつて、話もこゝで切つていゝのである。しかし、生活習慣として廣く解釋する時、躰けは、心の方向に對してもある。即ち、心もちに向き、心のもち方、こゝにいふことも、一つの習慣であり、躰られ方によつて或るところまできまるものである。但、これは、單一に心だけ切りはなされた問題としてゝないことが多い。常には行動につれてゐる内面の動きである。人が繪本を見てゐる。そのそばを靜かに歩く。人の邪魔をしまひまするやさしい心もちの動き方である。神社の前を通る。おのづから歩調を正し、立止まり、敬禮する。

敬神の心の動きである。即ち、正しい行動の躰けがつけられてゐれば、それ／＼正しい心もちが伴ひ躰けられてゐる譯である。

しかし、必ずしも行動が一つでなく、心もちだけの躰けといふことがないでもない、たゞへば、お話を聴く。その感じ方である。眞面目に聴く。うはの空で聴く。甚しきはちやかして聴く。これは、聴き方の行動ではなくて、その話への心の反應のし方である。批判的態度。同情的態度。感激的態度。斯うした態度の差も、その時々心の心もちの向ひ方の差違である。こゝにいふこゝは、一面には、その子の生來にもよる。宛かも、行動の粗野な子と精雅な子とが生來にあるやうなものである。しかし、躰けられ方によつて大に違つて來るこゝは著しい。

こゝで、この心の躰の方は行動の躰の如く、外から指導してさういふ躰をつけるこゝはむづかしい。之れこそさうしても、周圍の人の心の動き方そのものによつて、子さものの心の向きが導かれ、促され、誘はれてゆく外はない。その意味で、躰けといふ、聊か外的の意味をもつ言葉よりは、内的意味の強い感化といふ言葉こそ當るのかも知れないが、同じ傾向の繰りかへしによつて、一定の方向へ、生活が癖づけられるこゝに於ては、行動上の躰を類を一つにするのである。それのみならず、教育上には、一層

深い意義をもつてゐるのである。幼稚園令には「善良ナル性情ヲ涵養シ」といふ言葉が用ゐてある。前に小學校令施行規則の中にあつた時の言葉は、「善良ナル習慣ヲ養成シ」であつた。こゝに、この二ツの用語を、殊に大正十五年特に改められたこの二ツの言葉に就て、こゝに簡単に論ずるこゝは敢て避ける。たゞ一言すれば、「善良ナル習慣」といひ、「善良ナル性情」といひ、行動上の躰と、心の躰とに相通するものを思はしめないでもない。行動に偏すれば形に固り易い。心に偏すれば形が亂れ易い。しかもよく考へて見れば、心と行動と、つまりはその子の鍊成の一途である。躰けは要するに鍊成の途なのである。

第四、幼児の教育と保育の本義

今まで述べ來つたこゝは、要するに就學前幼児の教育的意義とその實質の一端に就てあつた。すなはち、教育的目的、教育的方法、教育的内容の強調であつた。就學前國民問題はそれ程に、さうまでも教育的なのである。しかし、それが幼児に對して行はれてゆく實際は、所謂教育らしい形で、あらはに教育が行はれてゐるものではない。今度の國民學校初學年は、從來に比して、急激な教育形態化を避けてゐるが、その以前たる幼児保育が、その點に於て一層徹底的であるべきは言を俟たぬのである。すなはち、

目的は教育、方法は保育といふことになる。そこで、先づ明かにして置かなければならないのは、保育の本義である。

一、保育の主義

教育的方法是、教育の目的を主として対象を指導してゆくところから、その方法に都合よき形に対象の生活を整理したり、その方法に必要な部分を生活から抽象したりしてその結果、おのづから、生活から遊離した形になつたりする傾がある。又、教育が主で生活が之れに従はされたりするこゝが起る。これに對して、どこまでも幼児の生活に即して離れず、幼児の生活を主としてその裡で行つてゆかうとするのが保育である。そこで、いつも幼児の生活のまゝを、少くも一應、具體の対象としてゆく。そのため、専ら幼児生活本位になつて、教育の所在が外に見えない趣がある。又、時には教育の所在が失はれたりするこゝも無いでなかつたりする。その本質に於て決して教育の反對のものではない保育が、いかにも教育と對立するが如く思はれたり、間違はれたりするのもこの故である。

それ程、生活に即するといふ、その生活とは何を意味するか。幼児保育の場合二つの方面を意味する。(一)幼児身邊の實生活。(二)幼児の平生の遊戯生活。之れである。

(一)幼児身邊の實生活。さうも適當の言葉が思ひあたらないので、何んだか特別な意味でもあるやうであるが、實

は極めて平凡な、幼児のふだんの起居衣食、身のまわりに關する實際である。これは、それ自身として必ずしも教育的といはれるこゝではない。どこまでも生活の實際であり、必要であり、家庭に於て母から受くるこゝろの行き届いた世話である。そこで、家庭に於てこの世話が完全に行き届いてゐるならば、幼稚園に於て、それ以上のこゝろをするまでもない。家庭の實情が之れを行届かせてゐない場合には、さうしても、誰れかゞ此の世話を引受けなければならぬ。たゞへば所謂保育所に於て常に見る通りである。但し、こゝに假りに擧げた幼稚園と保育所とは、從來普通に考へられてゐるやうに、相對立せる施設ではない。殊に近時の社會情勢に於て、總ての家庭が忙しくなるこゝろから、所謂中産家庭に於て保育所的施設の利用が多くなり、即ち、所謂幼稚園保育の名の下に、この世話を多くしなければならなくなる。而して、それがたゞに、しなければならなくなるといふよりも、その幼児の教育を生活的、具體的ならしめる上に於て、最も有效なのである。たゞへば、清潔といふ教育を興へようとする。清潔なる世話こそ、幼児をして經驗的にその訓練を受け得させる一番の近途であり、効果的である。更に、そうした行動訓練以上、たゞへば、人間愛といつた性情の陶冶培養をしようとするに、幼児をしてそれを身に經驗し得るのは、周到懇切な世話を受くるに

まさることはない。すなはち、世話はごきまでも實際の必要であり、そこにこそ意義があるのであつて、かげに教育的効果を期待しつゝ行ふものではないが、結果としては、非常に教育的である。その實際必要な世話を行はないで、教育を教育として直に行つてゆかうとするのは保育でない。こゝに幼児期保育の妙味が存してゐる。次に

(二) 幼児の平生の遊戯生活。之れまた、保育に於て最も重要とするところである。その意味は、遊戯の教育價值といふことからもいはれるが、さういふ實質問題へ入る前に、遊戯が幼児の眞の具體の生活であり、それに即し、その裡に於てのみ、その取扱ひの具體を得られるからである。教育の爲に遊ばせるのではない。遊びを教育に利用しようとするのではない。先づ、幼児が自ら遊んでゐることそのことに即觸して、その生活性を豊富にし、幸福にするのである。そこに保育の第一要諦が存する。故に、保育の實際をたゞ傍觀するものは、そこには遊べる子ごも、それと共に遊んでゐる保母があるさしか見ないであらう。それ程幼児の生活そのものゝ中にのみ保育といふことがあるのである。

これを綜括して他の言葉で言つて見れば、保育されてゐる幼児達は、教育されてゐることを中心とせず、即ち被教育意識なく、たゞその生活の裡に樂しき幸福感を味つ

てゐるのである。保育者はその念慮に於て勿論、深くこまやかな教育意圖をもつてゐるが、それを外面にあらはさない。のみならず、教育的意圖は意圖として自分の心の奥に堅持しながら、幼児に對してはその現在の生活的幸福に専念する。これが保育の本義なのである。

一、注意すべき點

保育の本義以上の如く、幼児の教育はその他の形では行はれないこと亦以上の通りである。しかも、時々生ずる誤りは、之れが兩極端に傾くことである。或る時は、保育の本義に陶醉して、教育を失念することである。その足らざるは、前講來述べた通りである。或る時は之れに反し、教育の意識の勝ち過ぎる爲に、保育の本義が忘却無視せられることである。近時、就學前の國民教育理念が強く自覺せられ來つた時、誤りは此の後者の方に起る傾きもないまいへない。過ぎたるの誤りさはいはうか。志はいゝのであるが、幼児教育の正しさを失ふことがある。更に具體的にいへば、國民學校の本旨及方法上の一貫的脈絡(前講參照)を思ふの餘り、幼稚園が國民學校の濃度にまで濃化せられてゆくことである。これは從來の餘りに稀薄なる誤りに對し、反動的に無理からぬことゝもいへるが、反動は決して正しさを與へるものでない。殊に國民學校教育の本質たる鍊成といふことが、その文字の表に讀まれるだけの意味に於て、

幼稚園で行はれる時、過ぎたるは及ばざる如しの感を免れ得ざらしめることが稀でない。國民學校そのものにあつてさへ、基礎的鍊成である。幼稚園では更にその根底を用意するのである。鍊成出来る土臺をつくることを言つてよい。

殊にわれ／＼自ら注意しなければならぬことは、教育の意圖は、その徹底を自分に見たいのみでなく、人にも見せたいものである。人に見せることになるに尙更のこゝ、幼児の生活のまゝなごでは物足りなくなる。つい、無理を思はず無理をするこゝにもなる。熱心の過ちであつて、尊敬すべきでもあるが注意を要する。幼稚園を心理學的教育理論からだけ論じてゐたり、保育所を社會事業的情熱だけから考へてゐたりした時違つて、國民學校へ結びつけて考へる此の講義なきでは、及ばざるを注意しなければならぬと共に、過ぎるこゝなきをも、時々警戒しなければなるまい。

三、幼兒保育者の特質

或は保育の妙味さひひ、或は保育の要諦さいつたが、この、理論的にむづかしいこゝの出来るのは、幼兒保育者の特質によつてある。幼兒の世話に行届く人としては母にひきしい。幼兒と共に真によく遊べる人としては子きもにひきしい。しかも、それだけでなく、ちゃんを教育を意圖してゐる人としては教師である。この三つの資格は、一つ／＼を充分に具へるこゝさへ必ずしも容易でない。それを

三つ。しかも三つの使ひ分けてなく、三つを一つにして具する人こそ、幼兒保育者である。

保母さいはれる人々の中に、此の三つによつて型が分れるこゝがある。おつかさんのやうな保母さん。子きものまゝのやうな保母さん。先生まる出しの保母さん。さあ、あなたは、どの型ですか。いや之れは飛んだ失禮なことを申し上げましたが、評判では、よくこの三つの型で形容されたりする。そうするに、保育者の特質を三分の一だけづゝ具へてゐるさいふこゝになる譯であるが、三分の一は一つではない。それではつまり幼兒保育者さへないのである。しかも、この三要素を一つにして身に具へてゐる人の、何んさいふ貴いこゝであらうか。われ／＼が、幼兒教育の實際家を世にも貴い人として尊敬するのは、その仕事が大切だからさいふだけではない。この三要素を身一つに具へてゐる人だからである。しかも、この三要素が一つになつて、保育の實際にあらはれる姿は、その中でも一番平凡に見へる一三二さであつて、肝心の教育は、裏でそつと光つてゐるに止まる。この貴い平凡さこそ、幼兒保育者の、何んさいへず貴い特質である。私達は世の人々が此點によく心づいて呉れなければならぬ叫ぶのであるが、世間が心づかない時でも、幼兒には——幼兒も素より心づかないが、——ちゃんを影響せずにはゐないのである。(つゞく)

國民科指導の精神 (三)

文部省圖書監修官

竹 下 直 之

六

順序として次に國民科修身の低學年用教科用圖書である『ヨイコドモ』について、幼児の教育にふ立場から、特に注意して考へて置いて頂きたい點を、概略述べます。

『ヨイコドモ』をお取りあげになつて、すぐおわかりになりますのは、この書物を通じて、未だあきけない感じのつよくする子さも自身に、實踐し體得するやう、いろいろのところが強調されてゐる、さいふことであります。登場する人物は既に前節に於て指摘して置きましたやうに、すべて「ワタクシ」であります。さうして躰けられる子さも、それでゐるのみづから率先して實踐し行爲するヨイコドモが、上下二卷のいづれの場所にも、示されてゐるのであります。

先づ上卷の初めには「ガクカウ」さいふ課があつて、そこは他のすべての課に於けると同様に、見開き二ページに互つた繪畫が用ひてあつて、入學直後に於ける子さもたちの

登校のすがたがあらはしてあります。しかも右肩に粹を切つて、そのなかに子さもおかあさんにつれられて、氏神様の社前に類つてゐる風景が入れてあります。これを從前の小學修身書と比較して見るに、國民學校に於てねらふ所がはつきりするで、ありませう。小學修身書でも第一課に、登校を取扱つた教材があるのでありますが、それには父兄に伴はれて登校する幾人かの兒童のすがたを以てして示してありました。併し、今度の『ヨイコドモ』には十數人の子さもたちが、みんな元氣に、ひさりで父兄の手をからないで、登校してゐるのであります。入學式のある日くらは父兄につれられて登校するさししても、これから先はひさりで登校する、むしろ學校はひさりで通ふのださいふ氣概が入學最初に於て芽生へるやう、導いてやらなければならぬのであります。

修身指導はかやうにして行はれるのでなければならぬ。國民學校に於てそれは道德の體系さか、或は倫理學的

諸問題ミかいふものを、上から押しつけて行くのではなくして、根本に於て子ミにも首肯できる形に於て、日常茶飯事の、大人から見ればミるに足らないものにさへ見えるミミからのなから、よく子ミもの將來を思つて、教材を取上げて行くべきものであります。國民學校に於ける修身の諸教科用圖書は高學年に至るまで、この考へ方によつて編纂されて參ります。

『ヨイコドモ』の上巻では特に、兒童用書のうちに目次を缺いてゐるのでありますが、このミは兒童のための兒童用書ミ、教師のための教師用書ミを混同しないやう、すなはち教師の活動を俟つて始めて、この二書が一體的ミなつて生命あるやうに、ミいふ留意から出でたものであります。随つて、兒童にミつては、一、ガクカウ、二、センセイ、なミミ、導かれてゐるミミがらについて、一つ一つを概念化して捕へさせる必要ありミは考へられないのであります。また教師について申しまして、先づ最初に修身指導上の徳目ミいふものを考へて、それから演繹的に教材の内容を考へて、教授するミいつたやうないはゆる徳目主義の立場に立つミミを斷念して頂かなければならないのであります。忠義ミいふミミについて指導致すにしても、また孝行ミいふミミについて指導致すにしても、始めて忠孝ミはかくかくのミミであるミいふ概念をつくり上げて、それか

らそれにあてはまるやうな例話を以て来るミいふ手法は、國民學校では放棄しなければならぬのであります。却つて教材を兒童心身の發達に即して、兒童の生活し實踐し得るものなから拾ひ出すミいふ心掛けが、特に低學年の教育、ひいては幼兒の教育の場合に、大切だミいふのであります。勿論、『ヨイコドモ』に於ては從來よりもはつきりミ、忠孝一本の大義に出でた教材を一貫して提出してあるのであります。以上に申述べましたやうなわけで、「チュウギ」ミいふ文字が出て来るのは、下巻の二年生の終りころであり、孝行ミいふ概念が與へられるのは、もつミ高學年になります。それにも拘らず、忠義な行ひ、親に手傳をし安心させるミいふ。孝行の實踐は隨所にみなぎつてゐるのであります。

舊教材ミ比較した方がよくわかるミ思ひますから、いま一つ二つ申添へて見ませう。『ヨイコドモ』上の六七頁に互つた繪畫は、教師用書で「センセイ」ミ呼ばれてゐる課に該當するのであります。ここには小學修身書では相當年輩の先生の前に、深く頭を下げてゐる子ミもが描いてあつたのであります。今度は、若し先生が手をあげて「集れ」ミ呼ぶミ、子ミもたちがみんな元氣にぎん／＼驅けつけて来る、ミいふ様子を示してゐるのであります。先生は子ミもの生活のなかにはいり込む、いはゆる師弟同行ミいふ精神に出

發して、極めて親しみ深い印象を與へるのでありますが、それと同時にまた自然に、先生に對しての畏敬、信順といった態度を子にもに對して求めしめるものであります。すなはちこの繪を御らんになりますとよく御諒承願へますやうに、右肩の枠のなかに、女の先生に對して子もが二人ほぎ、往來でいてねいにお辭儀をしてゐる所が描いてあるのであります。活潑ななかに、また師に對しての禮を忘れないやうにする躰が、兒童生活の實際に即して與へられてゐることを考へて頂きたい。すべて子もたちが實踐し得るやうに導くといふのが、先決問題であります。

「テンチャウセツ」の課に致しましたが、従來はただ觀兵式に關する情景のみが掲げられてあつたのですが、『ヨイコドモ』では更にその上に、子もたちが自分で、家の前に、國旗を立てようとする圖を以てして、包んであります。天長節に關する兒童の實踐は、むしろかうしたところにこそ求められ得るからです。天長節といふことについて、ただ知識を與へるのみではなく、子もは子もなりに、みづから行爲するところのできる國旗掲揚といふことを通して、皇國に生まれたるよろこびを感じ、國民としての信念に燃えしめることが大切であります。但し低學年兒童ないしは幼兒にまつては、このことについて多少の補助をする人がなければ、完全には行へない。兄さんが先達になつて國旗

を立てようとしてゐる繪が描かれた所以であります。

畢竟するところ、『ヨイコドモ』のねらひとするものは、子もたちがそのままに行爲し、實踐し得ることからでありますから、その點に照應して考へますと、従來行はれて來た「キグチコヘイ」さか、第二學年では「廣瀨武夫」さかいふやうな教材は、少しく程度が高いといふことになります。採擇してあります「金太郎」のやうな教材も、それを英雄として、ないしは偉人として子もたちに感ぜしむべきではなく、飽くまで自分がそれに代つて行爲し得るやうな人、隨つて友だちとして考へ得るやうに、取扱つて行かなければならないのであります。

『ヨイコドモ』の著しい特徴となるものは、以上によつて既に御氣附きのやうに、先づ無理な道德的お談議をするのではないといふ點であります。それ故に「ケンクワスルナ」さか「ウンテイフナ」さかいふやうな禁止命令さかいふものが、影をひそめて、代るに誘ひかけるやうな態度で、「オルスパン」さか、「ツヨイコ」さかいふやうな教材が現はれたのであります。しかもこのことと共にまた、忠孝一本といふ國民精神の根基たるべき重要なことからは、すべての教材についてその背後に働き、高學年に進むにつれて段々、前景に出て參るのであります。既に第二學年用の『ヨイコドモ』下巻のなかに、「天皇陛下」さか、「紀元節」さか、「日

本ノ國「こかいふやうな課に於て、相ついで國體に對する信念に培ふものが、積極的に出てゐるのであります。日本の國の有難さを、國がらについて、また國土の恵みのうちに味はせるやうに留意されたのであります。この傾向が、第三學年から第四學年へミ、漸次的に組織立てられて行くことは、來年度以降の新教科用圖書を以て、御覽願はなればなりません。

七

少し修身的なことに暇をつたやうでありますから、それでは次に國民科國語について輪廓をつくり上げて見ることに致しませう。

國民學校令施行規則のうち

國民科國語ハ日常ノ國語ヲ習得セシメ其ノ理解力ト發表力トヲ養ヒ國民的思考感動ヲ通ジテ國民精神ヲ涵養スル

モノトス

さしるしてあります。この簡潔な條文のうちに、國民學校に於ての國民を指導すべき範圍なり方法なり目的なりが、極めて適確に示されてゐるのであります。

子どもが眞に日本國民としての生活をいさなむことができやうになるためには、日本のことば、すなはち國語をよく理解し、また使用することができなければならぬこと勿論であります。私共の祖先はすべて國語によつて、もの

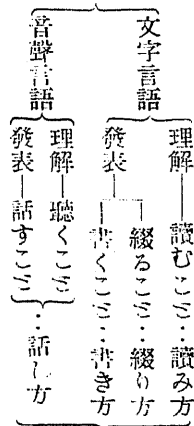
を考へて來ました。また國語によつて、ものを感じてきました。さうして國語によつて、思想を表現してきたのであります。私共日本國民としての思考感動は、すなはちこの國語と切離すことのできないものであります。その限りに於て國民學校に於ける國語教育の有する意義たるや、極めて重大であります。眞に國語を習得すれば、國民精神を體得することになり、また國民精神を體得すれば、國語に通達することになるからであります。皇國臣民たるの自覺を直接の指導事項とする國民科に於て、國語が占める位置が如何に大切なものであるかは、十分に御推察できることと存じます。

施行規則に於て「日常ノ國語」といつてをりますものは、普通の國語を指すのであつて、特殊、専門、ないしは高尚な國語と區別して見る必要があるのでありませう。さうしてそこに國民學校教育としての限度があるわけであります。普通の國語として、國語の指導に於ては、醇正な國語を教へなければならぬ。方言とか訛語とか、蕪雜野卑な言語を取上げることは避けるべきであります。この場合に東京語はだいたい於て標準となるのでありますが、東京語のうちには東京方言でも呼ぶべきものが存してゐます。それらは教育的立場から當然、矯正され醇化されなければならぬのであります。例へば極めて耳につく「行つちやつ

た「さか」、「やになつたやふ」「さか、女の方の用ひる」「さうさ
ます」「さか、「かうだわよ」なごさいふやうなものはそのれで
す。また「もち」「さか」「たんせん」「さかいふやうな流行語の如
きも同断であります。飽くまでうるはしい國民的思考感動
をいきいきと孕んでゐる國語を以て指導すべきであります。
要するに、「日常ノ國語」を呼んでありますものは、口
語と文語と、またある程度の古典語を含んで、普通の國民
生活に必須であり、基本的規準的な國語をいふのでありま
す。この點から考へて見て、幼兒の時代、ないしは國民學
校入學當初に於て、子どもたちの用ひるいはゆる兒童語な
るものが、教育的に尊重せられ得ないものであることは、
容易に御氣附になられることと存じます。

所で、日常生活に用ひる國語には、いはゆる話しことば
としての音聲言語と、文字に書きあらはす文字言語とが區
別せられるのであります。さうして國民學校に於ける國語
の指導は、この兩方に互つて理解力と發表力とを養ふもの
でなければならぬのであります。音聲言語は、話すこと
と聴くこととの二つのはたらきを含んでゐます。また文字
言語は、讀むことと書くことと綴ることとの三つのはたら
きを含んでゐます。ここから理解力と發表力とに結びつけ
て見ますと、次のやうに國語指導を「讀み方」、「綴り方」、
「書き方」、「話し方」に分節して行くべきことになるのであ

ります。



いはゆる國語の四分節と稱せられるものが生誕するので
あります。

このことについて申述べるに先立つて、なほ私共は、國
語の本質を見定めて置くことが肝要であります。

すなはち、一般に言語を以て思想傳達の道具とみなす考へ
方が行はれてゐるのでありますが、この通俗的な言語觀に
ついて、十分に見定めて置かなければならない。確かに言
語といふものは、その結果からのみ見ますれば、一種の符
徴であり、道具であるに過ぎないであります。併し、そ
の言語によつて發表される思想は、もともと言語を通して
獲られたものであります。いひかへれば、私共は言語を通
して思考し、また感動して、思想を構成してゐるのであり
ます。思想と言語とが、随つてさきにも述べたやうに、國民
精神と國語とが、紙の表裏の如く一體不可分である、さな
す理由はまつたくこの點に存するのであります。國語指導
上の鍵をかうしたところに求めるのでなければ、國語の四

分節といふことについて指摘するにしましても、ややもすれば言語そのものを思想交換の具として形式化し、言語發表の題目たる材料をのみ尊重することになつて、主客の顛倒を來たすおそれがあるのであります。國語指導に當つては、言語が主であり、實物そのものの指導は客であるといふことを、没却してはならないのであります。

それでは、いふところの讀み方、書き方、綴り方、話し方といふ國語指導上の四分節について逐次、申上げて見ませう。

先づ「讀み方」は國語指導上の中核となるものであります。このうちには、ただ讀むといふだけではなくして、書くこと、話すことをそれ自體のうちに含んでをり、それ故に、「書き方」、「話し方」ならびに「綴り方」に密接不可分の關係に於て成立するものであるからであります。ここでは、讀み方だから讀むだけでよい、と考へてはならないのであります。従前かかる偏した指導がしばしば行はれたことがあります。文意直觀といふやうなことが主張されて、子どもとしての力の程度を超えて、文章の大意を捕へたり、或は作者の性格を看破しようとするこゝなごが、大切だと考へられてゐたのであります。文字を正確に讀むこと、書くこゝなごは輕視してしまつて、字は拙くても讀める程度に書ければよい、また假名遣は誤つてゐても意味さへ通じれ

ばよい、こゝなご弊風があつたのであります。

この弊風から脱するのでなければ、文章の意味も正當に理解されることは、困難になります。言語、文章といふものは、思考、感動と一つになつてゐて、生命を有するものであります。文字が曲つてをれば感動も薄く、文字が誤つてをれば、思想も正確に通る筈はないのであります。讀むことはすなはち、文字を通してその思考、感動と一體になることですから、正しく讀むためには正しい文字、正しい發音なり抑揚なりに、よらなければならぬのであります。もちろん進んだ階梯では、發聲階段を通過した默讀をも包含してゐるのであります。

「讀み方」としては、それ故に、特に幼少の兒童に習得せしめる場合、教材に即していろ／＼の言語活動をさせて見るこゝが、一面には意味感情に徹して讀みを深からしめるゆゑんであることにも、他面にはまた音聲言語の基礎練習をなさしめることになるのでありますから、插畫とか掛圖とか文章さかについて、話をさせたり、文章を暗誦させたり、劇的に演出させたりするこゝが、そのまま讀み方としての大切な操作になるわけであります。その點實際指導上は、話し方と相即一致することになります。

また讀み方の一操作として、正確な書寫といふこゝも大切であります。いはゆる書取であります。文字の劃さか、

筆順をかを十分に指導し、文字を正しく記憶させなければなりません。この場合に注意しなければならぬのは、書くことを徒に器械的ならしめ、言語の取扱を形體化せしめないことであります。書くことは一面に讀む力を深めて行くための作業であり、言語、文章の意義をか構造にかは、讀むこと以上に書くことによつて、體得せられるのであります。それ故に、教材の文章を書かせながら理解させる、また韻文の如きものは、その全文を書かせて見て、思考感動に徹せしめることが、取扱として望ましいのであります。むかし、寫經といふことが行はれたやうな精神で、新しい文字だけを羅列して書かせるといふことは、却つて避けて然るべきであります。

國民學校では特に「習字」を呼ぶものが、藝能科のなかに入れられて、在來の「書き方」の一部が切離されてゐる意味を、考へて見なければなりません。國話に於ける「書き方」は殆ど「讀み方」のなかに包まれてゐるのであります。この方は文字書寫の基礎であつて、文字を正確端正に書くといふ方向にむかつて進ましめるものであります。

次に「話し方」を呼びますものは、「讀み方」や、また「綴り方」なごに關聯して、指導されなければならぬのであります。國民科國語では「話し方」のための時間を特設しないのを建前としてをります。もちろん話し言葉と讀み言葉と

は相違するものがありますが、併し先づ讀み方に即して、子どもたちに自由簡明に發表させる機會を與へ、話す心構をつくらせることが大切であります。

これまで子どもたちは壇上に立つて、おばあさんなごから聞いた昔噺をする、といふやうな指導が行はれたことがあります。併し、さうしたところでは、よく低俗な物語さへごび出して、子どもたちはよろこんで、それを聴く聴き手にまはつたり、また話す子どもは聴き手に媚びて、卑猥な俗話すら持ち出すことになり勝ちであつた、ご思はれます。言語發表として不完全であつても、それになら指導を加へて行かうごしないやうな、だらしのない話し方なら、むしろ止めた方がよいのであります。適切な教材については、躰を中心とした齒ぎれのよい話し方に導く工夫が、なによりも大切であります。その意味で、『ヨミカタ』に示されたやうな優れた教材を劇に仕組んで演じさせたり、名文を暗誦させたりすることも考へられます。

しかも「話し方」について指導する場合には、つねに禮法にかなふやうに考慮し、禮の精神を言語の上に體現させる指導が大切であります。他人の感情を害し、他人の非をあげて、快しとするやうな言動を戒むべきはもちろんのこと、口先のみ巧みで、然諾を重んじない氣風をなさしめないやうに指導して行くことは、幼少の頃から培はなければなり

ません。如何なる場合に如何に言ひ、如何に言ふべからざるかをわきまへしめ、進んでは巧みに語る人に對してはよき聴き手となり、こゝば少き人に對してはよき話し手となる。こゝいふやうな社交上の心構をも芽生へしめて然るべきであります。

「讀み方」、「書き方」、「話し方」、三順を逐うて参りましたが、「綴り方」は幼児の教育との關係が比較的少いと思ひますので、簡単に申し上げます。要するに「綴り方」については、國民科國語は兒童の生活を中心として事物や現象の見た方、考へ方を指導し、表現力を養ふこゝを第一義とすものであります。その點「綴り方」は終始子ぎもの生活實踐に即應しての國語指導である、こゝいへるでありませう。併し、これまでの初等教育ではこの方面の指導が教育的に考慮されなかつたために、不幸にして不健全な思想を醸成しないでもなかつたのであります。國民學校の綴り方は、眞實を書く前に、まづ如何なるものを書くべきかを指導するやう、要求してゐるのであります。すなはちいつも「道」に照らして心にうつり行く情意を表はしめようとするものであります。子ぎもの生活はつねに大君の赤子たるの道、親の子たるの道、學校の兒童たるの道に立つてゐなければならぬ。この道に立つた生活、皇國の道に即しての生活が、綴り方に示さるべきであります。家庭のつまらないこゝを書き立

てるこゝいふやうなこゝからは、兒童本然の羞恥心をさへ麻痺させてしまひます。このこゝは幼児の教育でも、なほ留意すべき點であらうと存するものであります。しかも同時に、子ぎもの見方、考へ方の指導に於て、その創造力を育成するこゝいふ根本の態度がとられなければならぬ。創造力に培ふこゝいふこゝが行はれて始めて、教育の眞義は發揮せられるのであります。

八

以上に於て私共は、國民科國語の指導内容についてそのあらましに觸れて参りました。さうして國語は單なる思想發表の具ではなくして、國民的な思考感動の結晶體であり、國民の思想精神と不可分の關係にある、こゝいふこゝを云爲したのであります。この點に深く思ひを致しますと、私共は今更ながら國語教育の重大な意義を知るこゝもに、また國語を如何やうにして尊重愛護せしめなければならぬかを、考へぬいて行く必要があるのであります。

國語の尊重愛護は、國語に對する道を闡明し、これを實踐することにあります。さうして國民學校に於ける國語の指導は、先づその實踐によつて國語の有する規準法則を體得させ、進んで國語の特質を知らしめ、國語を醇化愛護するの念に培ふこゝを、任さしてゐるのであります。

すなはち國民學校では、先づ發音を正し、抑揚に注意す

ることによつて、國語の道の實踐に入らしめるのであります。この發音を正しくするといふことは、從來でも久しい間になへられて、一部教育上の實績に見るべきものもあるのであります。國內全般としては前途なほ甚だ遼遠の感があるのであります。抑揚を申しますときには、いはゆるアクセントをも含めてゐるのでありますが、これは實際の指導に於て大へんに困難であります。しかし今日に於て、國語が東亞共通語として、重大な役割を演じようとしてゐる折柄、その發音なりアクセントなりを、これまでのやうに斷じて方言的に放置すべきではないのであります。

學校では醇正なる國語を以てしても、家に歸つておかあさんで話す場合には、もう方言になつてしまふといふのは、その教育は不徹底に終ります。方言の甚だしい地方では、特に注意すべきところがあります。さうして子ぎもの導かれる標準語に應ずるところによつて、むしろ方言を次第に我國から無くしてしまふだけの意氣込がなければなりません。

こさばの抑揚、アクセントを全国的に統一するといふことは、なか／＼骨の折れる仕事であります。併しこのものの醇化統一を徹底させて、それによつて東亞共通語として、更にはまた進んで世界語としての文化的な資質を備へしめることが、今日に於ける急務であるところを十分洞察し

て、困難を克服し、國語の醇化といふことに邁進すべきであります。このところをまさに教育上の任務として與へられてゐるものであります。

發音、アクセントばかりでなく、國語にはなほそれ自體の法則があります。私共が日常用ひる國語は、この法則があるが故に、私共はその意義を解し、また誤なく傳へることもできるわけであります。國語の法則を呼びますものは、すなはち語法であります。この國語の語法は、文法と呼ばれる。文法は一見簡單なやうですが、その實運用の上で極めて微妙なところが、それがこさばの選び方や、いひまはしにまで延長して、修辭法に密接なつながりを持つてをります。この點に鑑みて、國語の指導はまた適當に、語法、修辭といふことに注意して、無意識的な使用を意識化し、法則の體得實踐に導く必要があるのです。國民學校ではこれを組織的、知的に授けようとはしません。併しなほ重點的に指導し、しかもつねに實踐的に導くことを求めてをります。

かやうにして、國民科國語の指導は、音聲言語に於ての標準語の使用のみでなく、また文字言語に在つても、つねに醇正なる國語の使用といふことを根幹とし、これを他科目他教科の指導に擴充するのはもちろん、兒童の生活の上にもまで體現させることを目ざしてゐるのであります。既に

臺灣、朝鮮、南洋に於て、正しい國語の普及徹底を期し、その他外地でも、この理想の實現に努力してゐるのですから、國民全體が心を一つにして國語の醇化をいふことに、積極的に協力すべきであります。國語の尊重、愛護をいふことを、ただ國語學者にのみ委ねて惰眠をむさぼつては相成らないのであります。

我が國語は歴史的に考へて見ますと、未だかつて外國語に征服されたことのない優れたものであります。肇國以來連綿として傳統し、發展し來つたものであります。たゞへ、これまでに多數の漢語ならびに漢語法を取入れ、また近世の歐米語に幾らかの影響をうけたことは致しましても、國語の生命はなほ脈々としてつらなり、生々發展し來つてをるのであります。

この歴史に即して申しますと、我が國語は一方で包容性に富むることに、また他方で儼として純粹性を保つるものがあります。「あはれ」「うれし」「かなし」など、たくさんやまごこさばが、殆ど上代そのまま、現代に於ける生活語として用ひられてゐます。また純粹なやまごこさばによつて表現される和歌といふやうな文學が、國初以來傳はり來つたのであつて、それが今日に於ていよゝゝさかに行はれてゐるのであります。それでゐる外國語の影響をもうけられ得る素質に富んでゐる。そこから時をり國語の混亂を

來したのではありますけれども、國語が世界語として發展すべき素質は、却つてそのことのうちにも藏されてゐる、さもなくして得るであらませう。

國語論を致すのが目的ではありませんから、控へることにして、さにかく國語の尊重、愛護をいふ見地に立つて、國民科國語に關する教科用圖書を検討して頂かなければならないのであります。併し、ここで國語の尊重、愛護を一面の理に走つたり、末梢的なものに流れたり、頑迷固陋に陥つたりしてはならないことを申添へて置きます。すなはち、國民科國語で強調してをります「國語の醇化をいふことは、單なる外國語の排斥でもなく、更に翻譯語の忌避でもありません。例へばラジオをいふ熱した國語が出て來たりしてゐることから、その點をお考へ願ひます。要するに、國語の法則に基づいて、特質に鑑み、また傳統を實際に照らしながら、音聲言語に於ても文字言語に於ても、平明雅馴を保ち、文化性、創造性を賦與することに努力するものであります。その限りに於て國語の諸教科用圖書は、醇正なる國語を通じて、國民精神を涵養し、情操の醇化、創造力の啓發に資し、併せて國語愛護の念に培ふことを期してゐる。兒童の鍊成はこの點に中核を置くのであります。

なほ教材について附説しますれば、文章の系統では、特に低學年に於て、叫び聲、獨言、對話、その他もつぱら主

體的な敘述が先行し、第三學年頃に漸く、客觀的な敘述に移り、四年以上で始めて、口語文と文語文との區別を、はっきりさせるのであります。また韻文としては、低學年に於て童謠、童詩、高學年で現代詩、和歌、俳句といふやうなものが、やうやく採擇されるのであります。

表現對象の系統から申しますと、初等科第一、二學年の頃には、遊戯、童話を中心とする兒童生活を以て、表現の對象となしてゐる、を考へてよろしい。童話は傳説とか、寓話とかいふものを通つて、第三學年の頃に神話、英雄物語に移り、四、五、六年頃に歴史物語といふやうなものになります。遊戯は模倣、作業、運動、觀察といふところから順次に進んで行くのであります。

簡單なものから複雑なものへ、兒童の生活や心情に關係の深いものから、國民生活、文化へ、具體的なものから、抽象的意義を有するものへ、學年に應じて深まることは、格別に説くまでもないところであります。低學年では兒童の主體的態度に即してゐるが故に、動物はもとより、心なき自然物までが、多かれ少かれ、擬人化され童話化されて提出されるのであります。

これと同じ立場で、敬語の用ひ方にもほぼ一貫したものが見受けられます。すなはち、おとうさん、おかあさん、おぢいさん、おばあさん等の言動を敘述する際には、いつ

も敬語的に表現されます。目上の人の行動は、「オツシャイマシタ」であり、「イラッシャイマシタ」であり、「ホメテクダサイマシタ」であつて、「オトウサンガイヒマシタ」、「オカアサンガイキマシタ」などいふ言ひ方は、「モモタラウ」「花サカヂデイ」のやうな説話的敘述のほかには、全然存しないわけであります。これが第三學年以上になると、徐ろに「オトウサンガイヒマシタ」「父ガイツタ」などいふ風の敘述に、すなはち客觀性へ進展するのであります。

これらのことを、次にでき上つた教科用圖書『ヨミカタ』を中心にして若干申上げて見ませう。

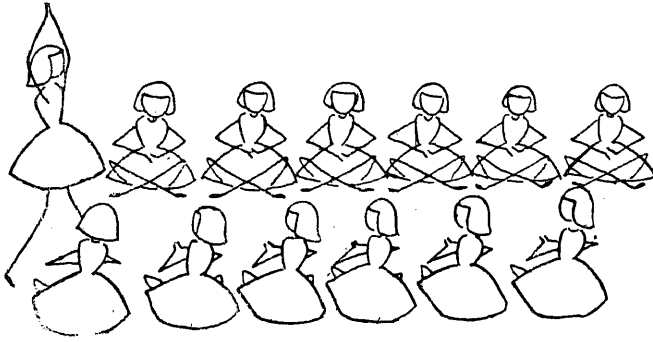
(つづく)

幼稚園遊戯 (三)

東京女子高等師範學校教授

戸倉ハル

四四



桃太郎さん 坊田かずま

作曲

準備 桃太郎一人選んで

おく。

動作

(一) 桃が流れて来ました

(二拍子)

間隔を五米程あけて互に向き合ひ、二列横隊に坐らせる。桃は列の最端に立たせておく。

○○○○○○ ○桃

一―八小節(十六呼間) 曲

を靜かに聽く。

九―十六小節(十六呼間)

體を軽く左・右に動か

しながら一呼間に一つ

の拍手をする。桃は兩臂を頭上にあげ桃の實を形造りながら、四歩前に進んだり、四歩まわつたりして、二列の間を流れる様子をしながら、前進する。

十七―二十小節(八呼間)

桃は前の動作を續ける。

他は立ち上り、一小節四歩の軽い跣足で臂を互の肩にさりながら、桃をかこんで桃を拾つた様子を現はす。

(二) 桃太郎が生まれました

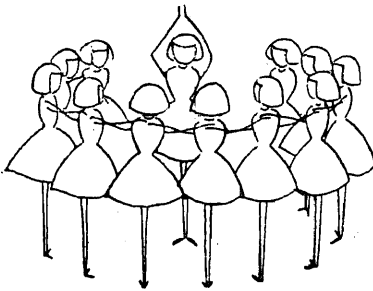
(三拍子)

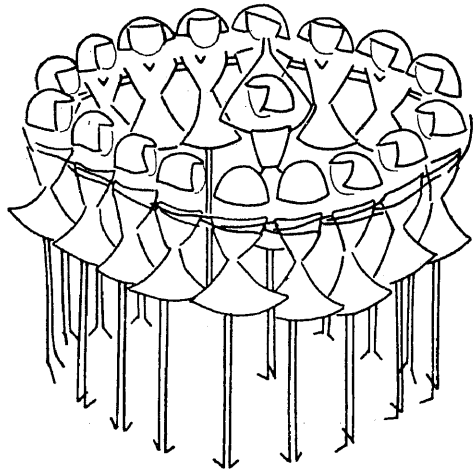
一―六小節(十八呼間)

(三拍子) 前の姿勢のまま

一小節に三つの軽い跣歩で後へ下り桃を中心ミして圓周を作る。桃もその場で軽い跣歩をしてゐる。

七―八小節(六呼間) 桃を中心にして全部座る。





九—十六小節(二十四呼間)一小節に一つの拍手をし桃太郎が生れた歡びを表はす。

十七小節(三呼間)左手で三回床を叩く。

十八小節(三呼間)右手で三回床を叩く。

十九—二十小節(六呼間)兩手で拍手六回行ふ。

二十一—二十四小節(十二呼間)十七—二十小節と同じ動作を行ふ。

二十五—二十六小節(六呼間)下から上へ打上げる様に大きく拍手二回する。

二十七小節(三呼間)左手で三回前方を指さす。
二十八小節(三呼間)右手で三回前方を指さす。
二十九—三十二小節(十二呼間)三十五—二十八小節と同じ動作を繰返す。

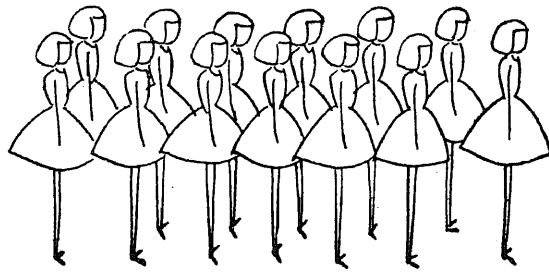


三十三—三十八小節(十八呼間)立ち上り、桃太郎を先頭に、一列縦隊に並ぶ。

(三)鬼征伐に出かけました(二拍子)

一—四小節を二回(十六呼間)股を高く舉げ、勇ましく前進する。

五—八小節を二回(十六呼間)臂を大きく振り、股を更に高く舉げ、一小節一歩づつ、よじ登る様子で前進する。



九—十二小節を二回(十六呼間)一小節一歩づつ、

はひながら前進する。

十三—十六小節を二回(十六呼間)桃太郎は、右手

を上にあげて指揮刀を振り他の者は兩臂を前に舉げお馬に乗つた様子をしながらスキップで前進する。

十七—十八小節を二回(八呼間)桃太郎を先頭に、

兩脚を前に伸して一列隊に坐り、船の用意を。

(四)小舟で島へ急ぎます

(二拍子)
一—八小節(十六呼間)一小節に一回づつ、舟を漕ぐ動作をする。

九—十二小節を二回(十六呼間)下圖の符表の通りに、初めの二小節に拍手七回、第三小節は出来るだけ早く八拍手、

次の四小節目は二拍手する。之を更に繰返し、早く早く島へ急ぐ様子を表現する。

十三—十六小節を二回(十六呼間)一小節に一回づつ舟をこ



ぐ動作をする。

(五)鬼と戦を始めました(二拍子)用意 全生

立ち上る

一—四小節(八呼間)一

小節四歩の駈歩で自由の方

向に前進し最後に二人むき

合ふ。

五—六小節(四間呼)



相手を左手を八回拍ち合ひ互に切り合ふ



様子をす。

七—八小節(四呼間) 相手さ
右手を八回拍ち合ふ。

九—十六小節(十六呼間) 一
—八小節迄の動作を繰返
す。

十七—十九小節(六呼間) 一
小節四歩の跣歩で自由の
方向に進み、手首を前後
に振りながら、頭上で拍
手を續ける。

二十小節(二呼間) 跳んで兩
足を左右に開き兩臂を斜
上に舉げて萬歳を表はす

(六) 萬歳の歌を歌つて 凱旋しました(二拍子)

一—十二小節(二十四呼間) 兩手の指を開いてひじをまげて
まわし車の様子をしながら圓を作る。

繰返しの一—四小節(八呼間) 兩臂を右肩にまきり、きじがつ
なを引く様子をしながら一小節に一步づつ前進する。

五—八小節(八呼間) 兩臂をまげ、犬が車を引く様子をしな
がら、一小節に一步づつ前進する。

九—十二小節(八呼間) 兩臂を前にまげて、猿が車の後を押
す様子をしながら、一小節二歩で前進する。

更に繰返しの一—二小節(四呼間) 脚を左右に大きく開き
車から寶物をまきり、右横におろす動作を一回行ふ。

三—八小節(十二呼間) 一—二小節の動作を更に三回繰返
す。

九—十二小節(八呼間) 拍手しながら、各自左の方へ一周り
する。

レコード番號

ピクチャー

幼兒體操

(A—三〇九)

バツタミツケタ

(A—三一一)

ネンドアンビ

(A—三一一)

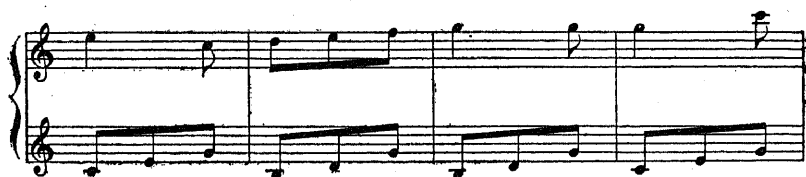
桃太郎サン

〔組曲〕
1. 桃ガ流レテ来マシタ

ユルク・静カニ

The musical score is written for piano in 4/4 time. It consists of five systems of two staves each. The right hand (treble clef) plays a melodic line with eighth and sixteenth notes, often grouped with slurs. The left hand (bass clef) provides a steady accompaniment with quarter and eighth notes. The tempo and mood are indicated as 'ユルク・静カニ' (Ad libitum, quietly).

2. 桃太郎が生レマシタ





3. 鬼征伐ニ出カケマシタ

勇マシク



4. 小舟デ島へ急ギマス

The first system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a melody with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. The lower staff is in bass clef and contains a bass line with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. Both staves have a 2/4 time signature and a key signature of one flat.

The second system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a melody with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. The lower staff is in bass clef and contains a bass line with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. Both staves have a 2/4 time signature and a key signature of one flat.

The third system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a melody with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. The lower staff is in bass clef and contains a bass line with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. Both staves have a 2/4 time signature and a key signature of one flat.

The fourth system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a melody with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. The lower staff is in bass clef and contains a bass line with a dotted quarter note followed by an eighth note, then a quarter note, and a half note. Both staves have a 2/4 time signature and a key signature of one flat.

5. 鬼ト戦ヲ始メマシク

The first system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a continuous eighth-note melody. The lower staff is in bass clef and contains a simple harmonic accompaniment of quarter notes. There are two dynamic markings in the lower staff: a piano (*p*) marking at the beginning and a mezzo-forte (*mf*) marking in the second measure.

The second system continues the piece. The upper staff maintains the eighth-note melody. The lower staff accompaniment features a mezzo-forte (*mf*) marking in the second measure and a piano (*p*) marking in the third measure.

The third system continues the piece. The upper staff maintains the eighth-note melody. The lower staff accompaniment features a mezzo-forte (*mf*) marking in the fourth measure and a piano (*p*) marking in the fifth measure.

The fourth system continues the piece. The upper staff maintains the eighth-note melody. The lower staff accompaniment features a piano (*p*) marking in the fifth measure.

The fifth system continues the piece. The upper staff maintains the eighth-note melody. The lower staff accompaniment features a piano (*p*) marking in the first measure and a mezzo-forte (*mf*) marking in the fifth measure.

Cres. V

6. 萬々歳ノ歌ヲ歌ツテ凱旋シマシタ

元気ロク

幼稚園手技 (三)

及川ふみ

保育項目の各々は、幼児の幼稚園生活の實際上から見る各項目が一つ／＼別々に幼児の生活の中におりこまれる事は少く大抵の場合二つの項目或は三つの項目がつながりあつて自然の形に幼児の生活の中に入る事が普通の型である。具體的にいつて見るに談話について考へるに、興味あるお話を聞き終つて、それが自由畫として表現されて來る事もあるし、粘土製作について考へて見るに、果物を粘土で作る爲に、柿、リンゴの實物の觀察が是非にも必要になつて來るのである。一つの仕事の中にいろいろの保育項目がくみこまれてゐる事が、幼児の生活指導の上に一番自然の形で行はれてゐるわけである。従つて保育者が保育案を作成する場合に一ヶ年なり二ヶ年なりの全體の大きな保育案を先づ作成し、それを年少組と年中組に頒ち、さらに年少組を三期に頒け、又その各一期づつをさらに一ヶ月、その一ヶ月を各週に頒けて保育案を作成するのであるが單に一日二日の保育だけを見るに或は各保育項目が個々別々にならべられてゐるかの如き感じがするものである。

觀察と手技

各保育項目のうちでも最も密接な關係にあるものは觀察と手技であるかもしれない。一輪の花をかくにしても、一羽の鳥を畫くにしても觀察を離れての表現はないのである。よく觀るものはよく畫くものである。よく觀るものはよく作れるものである。自由畫にしても、製作にしても觀察が充分に出來てこそ始めてほんまに物を畫く事が出來、ほんまの物が作られるのである。

木の葉のお皿

たと觀察も大人まぢがひ、興味がなくては無理しひになる。秋の落葉の觀察にしても、たと觀察の爲の觀察だけでは幼児たちの興味が湧いてこない。拾つた落葉で何かおもちゃが作れるに面白。銀杏の葉を拾ひあつめて蝶々や鳥の形に貼るのもよいし、蔦の葉柄で龜の子を作るのもよい。形が簡單で恰好のよい蔦の葉、櫻の葉、銀杏の葉などは粘土に葉の型をこつてお皿なき作るに幼児たちが喜ぶ。作り方は簡單である。粘土を粘土板の上で五ミリから一センチ

位の厚さに平にのばす。この時一度は粘土板から粘土をはなしておかないで出来上つてからお皿が粘土板にくっついて木の葉のお皿がこはれてしまふ。平になつた粘土の上に葛の葉を裏が粘土につく様にのせて、静かに上からぎの部分も同じ強さで上からおさへる。

粘土ベラで葉の周圍を出来るだけ葉の形と同じ様に切りおさす。この時粘土ベラは出来るだけ立て、葉の形を崩さない様にする。次に左手で葉の上をおさへながら、右の手で少しづつ靜かに葉の周圍を持ち上げる。一部分葉をあげて葉脈が粘土によく型をつけてゐるかを見定めてから靜かに粘土から葉をさらはず。割合に容易にいろ／＼の葉の型を寫すこゝが出来て興味をもちながら木の葉の觀察が充分に出来るわけである。

古葉書の柿と栗

次に柿や、栗の觀察がきの位幼児たちに出来てゐるか畫用紙や古端書で作らせて見るに面白い。平面に栗や柿を畫いて切りぬいてもよいが、簡單に立體にも出来る。

別圖の栗は上の部分は茶色を濃く、下の部分は茶色を薄く塗る。周圍を切りきつて、上の部分の尖つてゐるところ半センチほぎ糊をつけて、下の方は座りのよい様に半センチ幅の底にしてお皿の上ののせられる様にする。柿は一面に橙色に塗つて周圍を切りきり、イミイの部分を一センチ

位に重ねてはりつける。菱形のへたは綠色をぬつて切りおさしイミイのはり合せた中央に菱形の中心だけ糊をつけてはりつける(菱形の全部を柿の下へはりつけるまかたくなので中央だけ糊つけにする)。

厚紙のお皿

お皿は半径六センチの圓が外まはりで、四センチ半の半径で六角をつくる。内側の六角、外まはりの圓をそれ／＼適當の色でぬつて、六角の角々を少し切りおさして上の方へ折つておく(六角の角はたゞ折つておくだけで、糊づけにはしない)。

柿、栗の大きさはお皿に盛れる大きさでよいのであるが、大體柿はイミイの間は二三センチ位、幅は五センチ半位でよい。栗はロミロの間凡そ八センチ、幅四センチ位で、柿のへたの菱形は長い方が三センチ半、短い方が約二センチ半の菱形でよい。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
- 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

會ノ開催

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名 會務ヲ總理ス
- 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳圓拾錢	金拾圓
一年分	金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓
拾貳冊送金	共	共	共
拾貳冊送金	共	共	共

廣告 神田區駿河臺ノ三品田廣告社ニ御申込下さい

昭和十六年十月二十八日印刷納本
 昭和十六年十一月一日發行

外國行郵税は一部金拾貳錢ノ割にて御拂込下さい

不許複製 轉載

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 發行所 倉橋 惣三
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 廣杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會

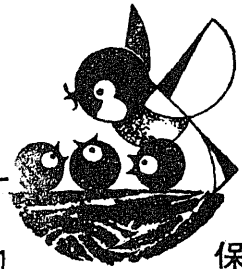
東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合には總ノ判地)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
- 一、送金の筋には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の封筒に「前送金」の印章を押捺いたします。かつ其筋は早速御送金を願ひます
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

目書行發館ルベール

書導指たき生るけ於に育教兒幼
書良つ立役に直に上育保の際實



保 育 叢 書

倉橋惣三先生監修

四六判總布本綴
各冊定價金一圓
送料六錢

第一編 幼兒の 人形芝居脚本

菊池ふじの先生共著
徳久孝子先生著

第二編 自然物おもちゃ

膳眞規子先生著

第三編 幼稚園の手技製作

及川ふみ先生著

第四編 實驗保育學

和田實先生著

幼 兒 性 行 評 定 尺 度

淡路圓治郎先生著

定價金 一圓
送料 六錢

幼 兒 發 達 檢 査

淡路圓治郎先生
牛島義友先生共著
吉田虎彦先生

定價金 一圓
送料 六錢

農 繁 託 兒 所 の 經 營

倉橋惣三先生共著
緋田工先生

定價金 三圓
送料 三錢

實地踏査
に基つて フレーベル全傳

高市慶雄先生著

定價金 一圓五十錢
送料 六錢

幼 稚 園 律 動 遊 戲 曲 譜 集

大阪市保育會編

全定價 金 二圓
冊

附 競記憶感覺爭遊戲・動作篇

構成々分を
主としたる 幼稚園遊戲の保育要諦

大阪市幼稚園共同研究會第六區編

第一卷 動作集 (金三圓)・第二卷 曲譜集 (金二圓)

子 供 の 舞 踊

石井 漢先生著

定價金 二圓五十錢
送料 十錢

シ ル エ ッ ト の 作 り 方

鈴木 重章先生著

定價金 六一錢
送料 六錢

館ルベール 株式會社

本社 東京・神田・二丁目保神 (33) 電話 六三六二番
支店 大阪・東區・五丁目後備 (24) 電話 八三九一番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
昭和十六年十一月一日發行

昭和十六年十月二十八日印刷納本
昭和十六年十一月一日發行

定價 參拾五錢